

令和5年度「やまぐちっ子の心を育む道德教育」プロジェクト推進校  
研究サポート委員 実践事例集

NO.	学校	内容項目	学 年
1	岩国市立川下小学校	規則の尊重	小学校2年
2	岩国市立由宇小学校	親切、思いやり	小学校1年
3	和木町立和木小学校	節度、節制	小学校1年
4	柳井市立柳井小学校	公正、公平、社会正義	小学校5年
5	柳井市立新庄小学校	親切、思いやり	小学校5年
6	柳井市立柳井中学校	よりよく生きる喜び	中学校2年
7	下松市立東陽小学校	家族愛、家庭生活の充実	小学校4年
8	下松市立公集小学校	友情、信頼	小学校6年
9	下松市立下松中学校	公正、公平、社会正義	中学校1年
10	山口市立平川小学校	善悪の判断、自律、自由と責任	小学校1年
11	山口市立白石中学校	国際理解、国際貢献	中学校2年
12	美祢市立秋吉小学校	相互理解、寛容	小学校5年
13	美祢市立秋芳桂花小学校	公正、公平、社会正義	小学校4年
14	下関市立山の田小学校	規則の尊重	小学校4年
15	下関市立山の田中学校	節度、節制	中学校1年
16	萩市立明倫小学校	友情、信頼	小学校5年
17	萩市立萩東中学校	思いやり、感謝	中学校2年
18	岩国市立東中学校	公正、公平、社会正義	中学校3年
19	岩国市立玖珂中学校	友情、信頼	中学校1年
20	周防大島町立周防大島中学校	公正、公平、社会正義	中学校2年
21	平生町立平生小学校	よりよい学校生活、 集団生活の充実	小学校2年
22	下松市立中村小学校	親切、思いやり	小学校6年
23	下松市立公集小学校	正直、誠実	小学校6年
24	防府市立松崎小学校	節度、節制	小学校4年
25	防府市立佐波中学校	向上心、個性の伸長	中学校3年
26	山陽小野田市立出合小学校	勤労、公共の精神	小学校3年
27	山陽小野田市立厚狭中学校	自主、自律、自由と責任	中学校3年
28	下関市立養治小学校	礼儀	小学校2年
29	下関市立文関小学校	規則の尊重	小学校5年
30	長門市立日置小学校	伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	小学校1年
31	長門市立菱海中学校	家族愛、家庭生活の充実	中学校2年

～規則の尊重～

岩国市立川下小学校

1 本授業におけるポイント

- きまりを守らず、みんなが使う物を自分さえよければよいという使い方をしたとき、後悔をしているときの心情を対比させ、多面的・多角的に考えられるようにする。
- ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、自由に意見を出し合える雰囲気作りをするなど、話し合いの仕方を工夫する。

2 授業の実際

1 主題・教材名 「一りん車」 (日本文教出版)

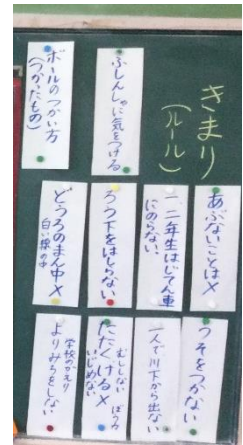
2 ねらい

身近なきまりについて確認し、みんなが使う物を自分さえよければよいという使い方をする問題について考え、みんなが気持ちよく生活できるようにしようとする態度を養う。

3 学習指導過程

(1) 導入 身近なきまりについて考える。

教師： みなさんの周りにはどんなきまりがありますか。  
 A児： ろう下は走らない。  
 教師： どうして走ってはいけないの。  
 B児： 危ないことしてはだめ。  
 C児： 一人で校区外に出ない。  
 D児： 1、2年生は自転車に乗らない。  
 E児： ボールは持って出た人がもどす。



○ 指導上の留意点・支援等

身近なきまりを思い出させ、なぜそのきまりがあるのか、どうしてそうしてはいけないのかなどを確認する。

(2) 展開 「一りん車」を読んで話し合う。

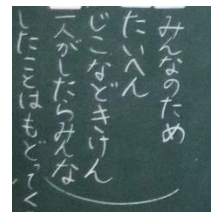
教師： 一輪車をかくした時の二人は、どんな話をしていたのかな。  
 A児： 次の休み時間も使いたいね。体育倉庫の裏にかくしておこう。  
 B児： もっと練習してうまくなりたいな。  
 A児： 二人だけで使えるね。うれしいな。  
 B児： きっと誰にも気付かれないよね。  
  
 教師： こんな行動をする二人をどう思いますか。  
 C児： よくない。悪魔の方が出てきている。  
 D児： かくすと他の人が困る。ずるい。  
  
 教師： 最後に二人は、どんなことに気が付いたのでしょう。  
 E児： やらなければよかった。(後悔している)  
 F児： かくしてあったら、みんなが使えない。

○ 指導上の留意点・支援等

教材文にある「次の休み時間も使いたいね。体育倉庫の裏にかくしておこう。」  
「もっと練習してうまくなりたいな。」に続く会話を想像させ、自分さえよければよいという使い方をするこの問題について考えさせる。また、後悔している二人の心情と比較させることで、多面的・多角的に考えられるようにする。

(3) 終末 きまりを守ることのよさについて話し合う。

教師： きまりを守るとどんなよいことがありますか。  
A児： みんなのためになる。  
B児： 事故などの危険なことから（みんなを）守ることができる。  
C児： 一人がずるいことをしたら、みんなもしたくなる。  
D児： 自分がしたことは、自分にもどってくるから守る。



○ 指導上の留意点・支援等

導入で出した身近なきまりをもとに考えさせることで、これまでの自分を振り返りながら考えられるようにする。

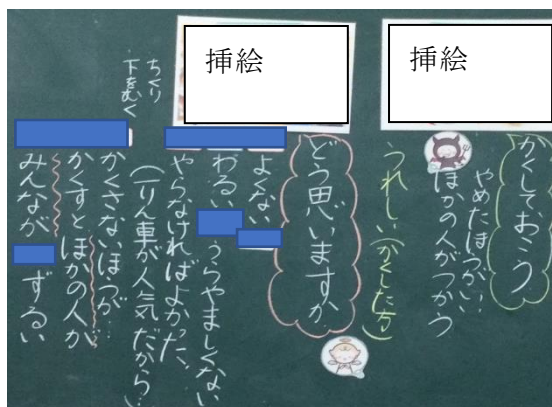
3 評価について

- みんなが使う物を自分さえよければよいという使い方をするこの問題について考えることができたか。〈ノート、発言〉
- きまりを守り、みんなが気持ちよく生活できるようにすることについて、これまでの自分を振り返り、今後の自分の在り方について考えることができたか。〈ノート、発言〉

4 実践を振り返って

学年始めの5月の教材であった。まだ、書くことや話すことに慣れていない時期であったが、ペアでお互いの意見を聞き合い、全体発表で意見を出し合うことができた。しかし、グループでの活動になると、誰がどんな役割で話し合いを進めていくのかが分からず、話し合いが停滞している場面もあった。

きまりに関しては、自分はきまりを守れているとする児童が多かったが、時には廊下を走ってしまうことがあるなど、きまりを守れていない場面もある。これまでの自分とこれからの自分を比較できるよう、視覚化するなどの手立ても有効に使えるとよかった。また、「みんなで使う物」という点に着目し、ボールを使うときのきまりや本を元の場所に戻すことなどについて考えを深められるとよかった。



～親切、思いやり～

岩国市立由宇小学校

1 本授業におけるポイント

- 自分よりも力の弱い相手に対して意地悪をするおおかみと、自分よりも力の強い相手から優しくされるおおかみの役割演技をすることを通して、誰にでも親切にすることのよさを体験的に考える。
- 終末では、「意地悪をしていい気持ち」と「みんなに喜ばれていい気持ち」の二つの「いい気持ち」の違いについて考えさせる。

2 授業の実際

1 主題・教材名 しんせつはいいきもち「はしの上のおおかみ」（日本文教出版）

2 ねらい

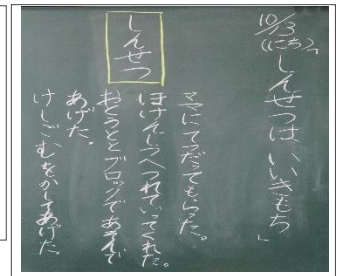
くまに親切にされたおおかみの変容を通して、意地悪をしたときよりも、親切にしたときのほうがずっと気持ちがいいことを理解し、身近にいる人に親切にしようとする道徳的心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 親切にしてもらったことや、親切にしたことについて考える。

教師： 今まで誰かに親切にしてもらったことはありますか。  
 A児： お母さんが手伝ってくれたこと。  
 B児： 友達が保健室に連れて行ってくれたこと。

教師： 自分が誰かに親切にしたことはありますか。  
 A児： 弟と一緒にブロックで遊んであげたこと  
 B児： 消しゴムを貸してあげたこと。



○ 指導上の留意点・支援等

導入では、児童一人ひとりが自分事として課題意識がもてるように、今までにどんな親切にしてもらったことがあるか、また、自分はどんな親切をしたことがあるのかを振り返らせて、本時の内容に関心や意欲をもつことができるようにした。

(2) 展開 役割演技を通して、おおかみの気持ちの変容を考える。

教師（うさぎ役）： 怖いよう、戻らなくっちゃ。  
 A児（おおかみ役）： えへん、えへん。おれは強いぞ。  
 B児（見ていた児童）： うさぎさん、かわいそう。  
 C児（見ていた児童）： おおかみは、意地悪だ。

教師（うさぎ役）： あ、おおかみだ。戻ろう。  
 A児（おおかみ役）： いいんだよ、こうすればいいのさ。  
 教師（うさぎ役）： おおかみさん、ありがとうございます。どうして、今日は優しいの。  
 A児（おおかみ役）： くまさんみたいになりたいから、やさしくするよ。  
 B児（見ていた児童）： おおかみさん、かっこいい。くまさんみたい。  
 C児（見ていた児童）： うさぎさんも、嬉しそうよかった。

○ 指導上の留意点・支援等

教師がうさぎの役をし、児童におおかみの役を指名することで、意地悪を楽しむおおかみの気持ちを理解できるようにした。また、くまの親切を受けた後、うさぎ役を教師が行い、おおかみ役を児童が行うことで、おおかみの心の変容を実感できるようにした。役割演技を見ている児童にもインタビューを行い、おおかみの行為がどのように見えるのかを発言させた。

(3) 終末 二つの「いい気持ち」の違いから「親切、思いやり」について考える。

教師： おおかみさんは、最後に「前よりもっといい気持ちになった」と言っていますが、最初の「いい気持ち」とどのように違うのでしょうか。

A児： 最初は、うさぎさん達に意地悪をして、いい気持ちになっていた。

B児： 最後は、うさぎさん達に喜んでもらえたから、もっといい気持ちになった。

教師： 最初の「いい気持ち」は、おおかみさんだけで、周りの動物たちは悲しんでいますね。最後の「いい気持ち」は、おおかみさんも周りの動物たちもみんな嬉しくなっているの、もっといい気持ちになっているのですね。

○ 指導上の留意点・支援等

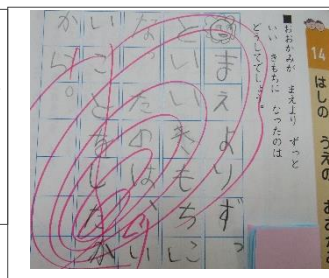
おおかみの心の変容が行動となって表れたことを通して、おおかみが優しく親切に振る舞うことで、周りの動物たちも笑顔と喜びに満ちることを理解しやすくするために、「表情ステッカー」を用意し、板書で活用した。

### 3 評価について

児童の発言や表情、つぶやきだけでなく、道徳ノートを活用し、視点を絞って考えることができるようにした。

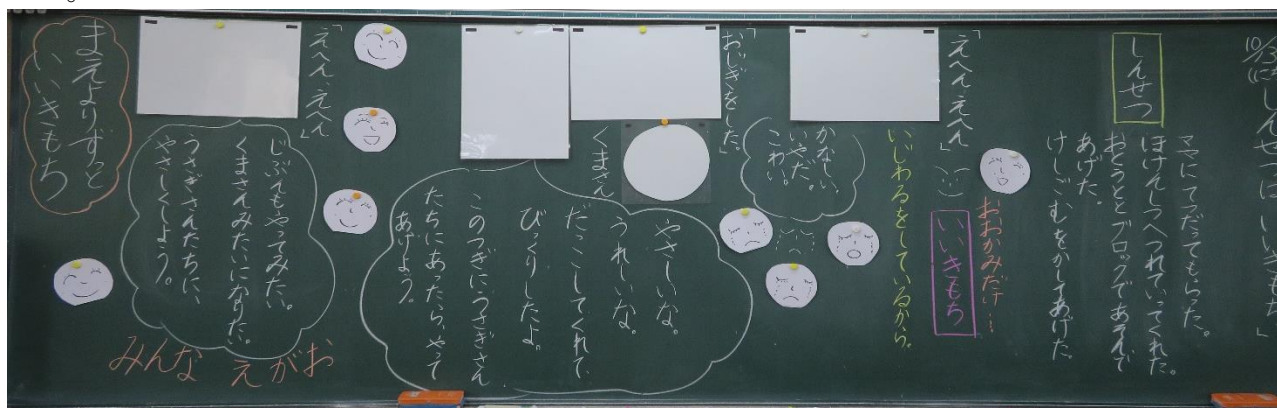
役割演技を取り入れ、主人公のおおかみに共感しながら、より深く考えることができるようにした。

今後も道徳ノートを活用し、価値の理解について評価を行っていききたい。



### 4 実践を振り返って

役割演技をすることで、児童は自分事として捉え、主人公になりきって率直な思いを述べることができた。演技の後、教師が児童にインタビューをすることで、おおかみや周りの動物たちの心情をより深く考えることができたと感じた。本時は、人権参観日の授業として行った。事前に本時のねらいやあらすじ、家庭で話し合っしてほしいことを「しおり」として保護者に配付して、授業後のアンケートも行った。保護者も児童と一緒に「親切」について考えることができ、より効果的であったと思う。今後も、役割演技のような児童の本音を引き出す指導など、自分事として道徳的価値に向き合うことができるような指導の工夫を行いたい。



## 1 本授業におけるポイント

- 児童が自由に発言できる雰囲気づくりを大切にするとともに、発言に問い返したり、発言の類似点や差異点を確認したりすることで、学びを深めることができるようにする。
- 役割演技を取り入れ、登場人物の立場になることで、悲しさや怒りなどの気持ちに共感しやすくする。

## 2 授業の実際

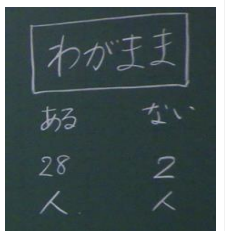
### 1 主題・教材名 わがままばかりしていると「かぼちゃのつる」（日本文教出版）

### 2 ねらい

人の注意を聞かないでわがままなことばかりしていると、ひどい目に遭うことを理解することから、わがままや自分勝手な行動を慎もうとする心情を育てる。

### 3 学習指導過程


#### （1）導入 自分の行動について考える。

教師： 「わがまま」を言ったことがある人はいますか。 児童： 挙手 教師： 「わがまま」とはどんなことでしょうか。 A児： やめなさいと言われてもゲームをすること。 B児： 遊んじゃいけないでも遊びたかったら遊ぶこと。 教師： わがままって悪いことだと思いますか。（挙手多数）悪いことなら今すぐやめないと…。	
---	---

#### ○ 指導上の留意点・支援等

わがままとはどのような言動なのかを児童の言葉で確かめることで自分の経験を想起しやすくし、誰もがわがままな心をもっていることを確認する。本時のねらいはわがままとなくすことではない。わがままとなくすことが難しい実態を踏まえた上でわがままと言いたいときもあることや、その際にどんなことに気をつければよいかについて学習することを押さえる。

#### （2）展開 本文を読んで話し合う。

A児（みつばち役）： そこは人の通る道ですよ。 教師（かぼちゃ役）： ふん、かまうもんか。 B児（ちょうちょ役）： あなたの畑はまだまだすいていますよ。 教師（かぼちゃ役）： いやだい。よけいな世話だ。 教師： みつばちやちょうちょはどんな気持ちでしょう。 C児： いやな気持ち。せっかく教えてあげたのに。	
--	---

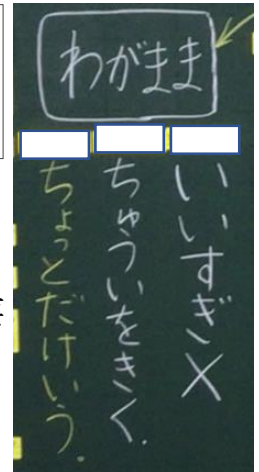
#### ○ 指導上の留意点・支援等

場面提示をしながら場面毎に朗読することで、児童が話の内容を把握しやすいようにする。役割演技の際は担任がかぼちゃ役となり、忠告を無下にしないように返す。

答を再現するよう意識し、児童が忠告した人物の気持ちに共感して感じた素直な思いを引き出せる雰囲気づくりに努める。板書は話の展開をイメージできるように、つるを伸ばしながら忠告した人物やその思いを書き加える。かぼちゃの言動、周りの人物の思い、結果を関連付けることで、かぼちゃが積み重ねたわがママが悪い結果を引き起こしたことを視覚的に理解できるようにする。

### (3) 終末 学習を振り返り、これからの自分について考える。

教師：これからどんなことに気を付けたいですか。  
 A児：わがママを言いすぎてはだめ。  
 B児：友達の注意を聞くようにする。  
 C児：わがママはちょっとだけ言う。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

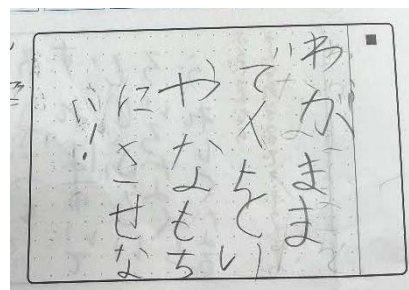
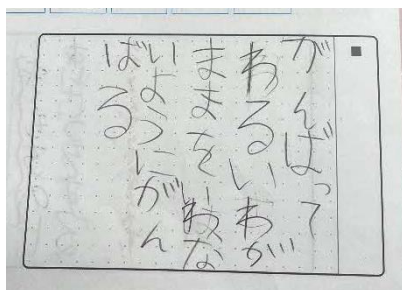
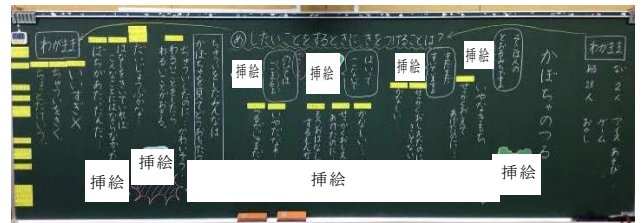
わがママの全てが悪いわけではないことをおさえることで、したいことをする時には頻度や内容、伝え方などの注意が必要だということを意識できるようにする。

### 3 評価について

- わがママを重ねていくことで、周りの人物とかぼちゃの両方が悲しく辛い思いをしていることに気付くことができたか。(発言・道徳ノート)
- わがママを減らし、これからの自分にできそうなことを考えられたか。(道徳ノート)

### 4 実践を振り返って

わがママは、児童が家庭や学校の様々な生活場面を想起しやすく、自分事として捉えやすい内容である。展開部では、場面毎に内容を確認することで、内容を確実に捉えて心情に共感したり、登場人物と自分や友達を重ね経験したことを発言したりする児童が多く見られた。振り返りでは、これから気をつけたいことを前向きに書くことができ、わがママをなくすのではなく、慎もうとする心情が育まれたように思う。しかし、振り返りの中には、かぼちゃがわがママを重ねて悪い結果を生み出した内容から「わがママはもう二度と言わない」と記述している児童も見られた。学習内容をよりよく自分事として捉えることができるようになるための問い方や、柔軟な個別支援の方法が課題であると感じている。



## 1 本授業におけるポイント

- 教材上の道徳的な問題場面の中で、関心をもった場面を選択し話し合わせる活動を設定した。子ども自身が自分の学び方を決定し、その学び方を振り返らせることで、問題解決的な学習の工夫を図った。また、道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実も意図した。
- 場面ごとに小グループで話し合わせることで、話し合いの工夫を図った。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 「いじめをなくすために」 (東京書籍)

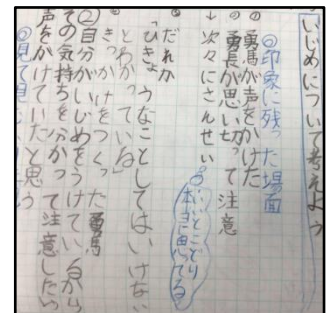
### 2 ねらい

関心をもった場面について話し合うことを通して、自分本位な考え方によって、いけないことや困っている人を見過ごしてしまう心の弱さについて考えを深め、公正、公平な態度で接しようとする道徳的態度を育む。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 教材の範読を聞き、話し合う場面を選択する

教師： どの場面について、話し合いたいか。  
 A児： 勇馬がみんなの前で、いじめが起きていることを思いきって注意した場面が気になったよ。すごいことだね。  
 B児： でも、みんなが次々に勇馬の意見に賛成したのは、うそっぽいな。  
 C児： だれかが「ひきょうなことをしてはいけないとわかっているはず」と、発言していたけれど、その言葉も気になったよ。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

「どうしてその場面が気になったのか」「どの言葉に違和感を覚えるか」などの気がかりを共有することで、場面ごとに分かれて話し合う必要感をもったり、「いじめについて考えよう」という学習課題に対して適切な場面を選択できたりするようにした。

#### (2) 展開 関心をもった場面について話し合う

教師： 関心をもった場面についてどのように思ったか。  
 A児： 勇馬は、自分がいじめられていたから、いじめられた辛さがわかったのだと思うよ。  
 B児： 周囲の同調した友達や先生に怒られないようにしてきている。いじめを見て見ぬふりや無視をしてきたのだね。  
 C児： きっと発言をしたのは、勇馬だと思うよ。いじめが学級で起こっていることに腹が立ったのではないかな。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

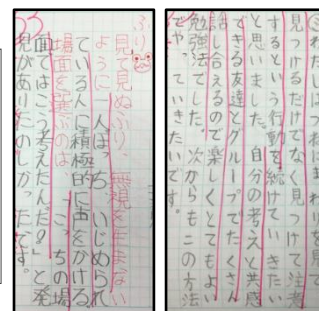
いじめではなくても、いけないことを見て見ぬふりや無視をした経験を振り返らせることで、誰もが知らない間にいじめに関わる見方をしてしまうことが



あることを気付けるようにした。

### (3) 終末 学習を振り返る

教師： 見て見ぬふりや無視を生まないように自分ができることは何か。また、場面を選んで学習してみてどうだったか。  
A児： ひとりぼっちでいる人をそのままにせずに、声をかけたい。ずるいことをそのままにしないようにしたい。  
B児： 自分と共感できる友達とたくさん話せてよかった。  
C児： 「こっこの場面では、こう考えたんだ！」という発見があり楽しかった。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

学習方法についても振り返らせ、その学び方を価値付けることで、本時の学びを他教科や他の道徳科の学習にも生かせるようにした。

## 3 評価について

- 関心をもった場面を基に、いけないことや困っている人を見過ごしてしまう心の弱さについて話し合うことができたか、話し合いの様子からみとる。(話し合いの様子、板書上のネームプレート)
- いじめをなくすために、自分ができることについてまとめることができたか、ノートの記事からみとる。(ノート)
- 右のノートを書いた児童は、誰にでも同じように関わることについて、イラストも添えてまとめることができています。道徳ノートを使用することで、子どもの思考がみとりやすくなる。



## 4 実践を振り返って

### ○話し合う場面を決定する活動について

- ・ 学習方法を選択させるためには、どうしてその学習方法を選んだのかという適切さを検討することが必要だと考える。本時では、その点をしっかり話し合うことができたため、子どもが話し合う活動に必要感をもち、教師の意図と合致した場面を選択することができた。



### ○関心をもった場面について話し合う活動について

- ・ 関心をもった場面について話し合う活動は、子どもの振り返りをみると、満足度の高い活動だったようである。しかし、場面ごとにグループを組んだり、それぞれのグループに発表させたりすることで、時間を多く費やすことになった。ICTなどを積極的に活用して、効率的な共有の仕方を模索したい。

### ○学習を振り返る活動について

- ・ 学習方法の振り返りについては、ノート上で価値付けた。今後、学び方の質を学級全体で高めていくためには、振り返りを全体で共有する時間が必要である。今回のような実践では、学習活動に多くの時間を費やす。学習方法を選択させる活動を取り入れる際の授業構成の工夫をしていきたい。

～親切、思いやり～

柳井市立新庄小学校

## 1 本授業におけるポイント

- 一人一台端末を用いて自分の考えを表現し、他者と自分の思いや理由を伝え合うことで、登場人物の状況を自分事として捉え、主体的に課題に向かう児童を育てたい。また、他者の思いや考えを聞いて、自分の考えを見つめ直すことで、自分一人ではなく学級全体で学ぼうとする「学び方」を身に付けさせたい。

## 2 授業の実際

### 1 主題名 相手の立場に立って親切に

教材名 「くずれ落ちただんボール箱」（東京書籍 新しい道徳5年）

### 2 ねらい

親切な行動をしたのに店の人に誤解され、その誤解が解けなかったとしても主人公は次もまた親切な行動ができるかを話し合うことを通して、いろいろな状況の中でも相手の立場や気持ちを考えて行動することの素晴らしさや、見返りのない親切の大切さに気づき、誰に対しても温かい心で親切にしようとする心情を育てる。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 親切にしたが、スッキリしなかった経験について伝え合う。

教師： せっかく親切にしたのに、モヤモヤした経験はありますか。

A児： 親切にしたのに、感謝されなかった。

B児： 相手がそっけない態度だった。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

親切にしたのに納得がいかなかった経験を振り返らせることで、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。

#### (2) 展開

##### ①教材文の前半を読み、話の内容を整理しながら、話し合う。

教師： 「わたし」はどうしておばあさんを助けたのですか。

A児： おばあさんが困っているから。大変そうだから。

B児： 見ていられなかったから。

教師： 店の人に叱られたとき、「わたし」はどんな気持ちでしたか。

D児： なんで叱られるの？おばあさんのためにやっていたのに。

E児： 理由も聞かずに決めつけないでほしい。

F児： なんでこんなこと言われるの？

#### ○ 指導上の留意点・支援等

店の人に叱られたときの「わたし」の気持ちを考えることで、主人公のなんともいえない葛藤や、親切にすることの難しさについて共感することができるようにする。

## ②教材文の後半を読み、もし店の人からの手紙がなかったとしても、次に困っている人を見たとき、「わたし」は親切にするとするかを考え、話し合う。

教師： もし店の人からの手紙がなかったとしても、次に困っている人を見かけたとき、「わたし」は親切にするとしますか。心情グラフで表し、理由も書きましょう。

A児： ぼくは、しないと思います。また叱られるのが嫌だからです。

B児： ぼくは親切にします。親切にしないと、心が落ち着かないし、お礼がなかったとしても自分の心はスッキリするからです。

C児： 助けてあげたい気持ちはあるけど、また叱られたら嫌だから迷います。

D児： 心はモヤモヤしても手伝ってしまうと思います。

E児： おばあさんは助かったし、お店の人は関係ないので、親切にするとします。

教師： 考えが変わった人はいますか。

F児： 友達の意見を聞いて、親切にするのは0%だったけど、30%にします。

### ○ 指導上の留意点・支援等

心情グラフを用いて、「わたしは親切にするとするか、しないと思うか」を表現させ、その理由を友だちと議論する。また、全員の心情グラフをモニターに表示しておくことで、多様な考えに接することができるようにする。

## (3) 終末 親切にするとき大切なことについて話し合い、自分を振り返る。

教師： 自分がこれまで行ってきた親切について振り返りましょう。これから「親切」にする上でこれから大切にしていきたいことは何ですか。

A児： 自分がもし親切にして、相手に誤解されたとしてもそんなのは気にせずに親切をわすれないようにしたい。

B児： 私が今までしてきた親切は、もちろん相手が困っていて助けたいという気持ちが多かったけど、少しだけ相手に感謝してほしい気持ちもあったので、この授業でちゃんと相手のことを一番に考えようと思いました。

### ○ 指導上の留意点・支援等

自分がこれまで行ってきた親切はどうだったかを思い出させることで、これからの生活に生かしていこうという意欲を高めることができるようにする。

## 3 評価について

「どのような状況でも相手の立場に立ち、相手のことを思いやって行動することの大切さを考えているかということ」や、「親切にすることについて、これまでの自分とこれからの自分を見つめているかどうか」について、発言やワークシートからみとる。

## 4 実践を振り返って

- ・ 今回は、「『わたし』はこのあと親切にできるか」を中心発問として問いかけたが、「自分が『わたし』だったらできるか？」という発問にすると、もう少し自分事として考えることができたかもしれないと感じた。
- ・ 中心発問では、児童の意見が「できる」「できない」「半々」など、様々な考えが出て、児童は多様な意見に触れることができた。始めに「叱られるから親切にできない」と考えていた児童も友達の意見を聞いて「できる」に考えが変わった児童も増えて、よい話し合いができた。
- ・ 今回は、心情グラフが数値化されていたので、「できる」「できない」の2択にしたり、数値がないパターンでやってみたりしてもよかった。

## 1 本授業におけるポイント

- 主人公の葛藤について家族の立場で考えることを通して、主人公がドーピングに気づいたときに自分が家族の立場であればどう振る舞うかを地域の方とともに考える。
- 自分が葛藤に直面したときに何を大事にすべきか、Padlet（オンライン上で扱える掲示板ツール）を活用し、クラス全体で共有し比べることで、よりよく生きる喜びについて考えを深める。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 よりよく生きる

「本当の私」（新しい道徳2：東京書籍株式会社）

### 2 ねらい

エイミーの葛藤について多面的・多角的に考えて話し合う活動を通して、自分の心の弱さや醜さを克服する強さと、失敗しながらも誇りをもち気高く生きる心を大切にしようとする道徳的心情を養う。

### 3 学習指導過程

（1）導入 なぜ嘘をついてしまうのか話し合う。

教師： 人間は弱さを持っているのだね。自分も何かごまかしたり、嘘をついたりして過ちをなかつたことにしようと思ったことはないだろうか。周りの人と話してみよう。

生徒A： テストの採点間違いとか、ごまかしてしまいそう。

地域の方： 私も、ものを壊したことを隠してしまったことがあるよ。

生徒B： 怒られたくないですからね。

### ○ 指導上の留意点・支援等

地域の方に事前に準備してもらったエピソードを紹介してもらい、人間誰もが心の弱さを持っていることを確認した。

（2）展開 もし、自身がエイミーの家族だとしたらどうするか考え、意見を話し合う。

教師： あなたはエイミーの家族だとします。もし、エイミーのドーピングに気づいてしまったらどうしますか。

生徒A： 自分は関係ないから何も言わない。

生徒B： ドーピングをしてメダルをとっても意味がないから、告白を勧める。

生徒C： 告白はエイミーの判断だけど、ドーピングはやめるべきだと注意をする。

### ○ 指導上の留意点・支援等

人間の強さと弱さを実感できるようにするため、葛藤場面において、生徒は

兄弟の立場で、地域の方々は親の立場で多面的・多角的に考える活動を設定した。

また、意見が偏らないようネームプレートを黒板に張り出してグループに分け、議論を行った。

### (3) 終末 葛藤に直面したときに何を大切にしたいか考え、クラスで共有する。

教師：これからあなたたちが葛藤に直面した時、大切にしたいことを Padlet に投稿しよう。

生徒A：後悔しない方法を考えたい。

生徒B：時間と勇気が必要だと思う。

生徒C：自分を信じてくれる人の気持ちも大切にしたい。

教師：Padlet の投稿をもとに、これからあなたはどのよう過ごしていきたいか、感想の欄に書いてみてください。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

Padlet への入力の様子

これからの生活に生かそうとする意欲を高めさせるために Padlet の投稿から共感できる生き方を取り入れ、自分の考えを深める活動を行った。

※Padlet・・・オンライン掲示板アプリ

## 3 評価について

本校では、ワークシートの様式を全校で統一し、評価方法を共有しやすくしている。

級友の意見の中で、自分の考えにはなかったものをメモする欄を設け、考えの広がりや深まりを気付くことができるようにしている。

本授業においては、班での話し合いの様子やワークシートの記述から、自分の心の弱さや醜さを克服する強さと、誇りをもち気高く生きる心を大切にしようとする気持ちをもつことができたかを把握した。

## 4 実践を振り返って

「考え、議論する道徳」授業を実現するために、次の手立てを行った。1点目に、主人公の葛藤を家族の立場から考えられる発問にすることで、生徒は課題を自分事として捉え、より本音で意見を言うことができた。また、選択肢を設けたことで全員が意見をもち、対立する意見をもとに議論が起こることにつながった。

2点目に、保護者や地域の方が授業に参加することで、生徒が多様な考え方に触れる機会となった。

3点目に、終末の場面で Padlet を用いて意見を集約することで、全員が自分の意見をもつと同時に他人の考えにも触れ、意見を深めることができた。

課題として、「家族の行動に正解はあるか」「嘘を墓場まで持っていく」などの発言に生徒はざわつき疑問を抱いていたが、その疑問を追求することはできなかったことが挙げられる。そこで、効果的な問い返しを行うことで、さらに問いを生みだし、よりよく生きる喜びについての考えを深めるためのきっかけとしたい。また、ICT活用や机間指導により生徒の考えを把握し、指名する順序に意図を持たせるなどして、生徒が一層主体的に取り組むことができる授業づくりを目指す。

## 1 本授業におけるポイント

- たかしとお母さんの請求書を比較しながら板書することで、両者の気持ちや考え方の違いに着目させ、家族の愛情に気付くことができるようにする。
- 役割演技を取り入れることで、たかしの思いに気付かせるとともに、たかしに共感しながら自分の家族との関わりについても考えることができるようにする。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 家族の助け合い「お母さんのせいきゅう書」（東京書籍）

### 2 ねらい

たかしとお母さんの請求書を比較し、両者の気持ちや考え方の違いについて考えることを通して、お母さんの家族に対する思いに気づき、家族の一員として家族みんなで助け合って生活していこうとする心情を養う。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 事前アンケートの結果を共有する。

教師： 家でお手伝いをしていますか。なぜお手伝いをするのですか。  
 A児： 家で、お手伝いすることに決まっているから。  
 B児： お手伝いすると、お小遣いがもらえるから。  
 C児： お手伝いすると、お母さんが喜んでくれるから。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

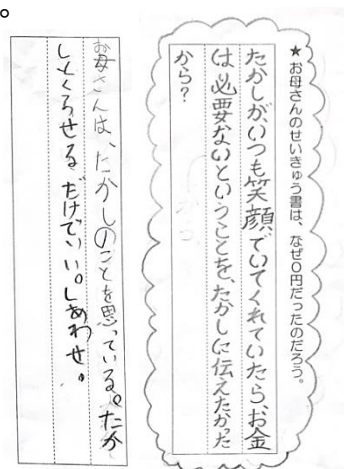
「お手伝いをしているか」「なぜお手伝いをするのか」について、事前にタブレット（ロイロノート）を用いてアンケートをとり、結果を紹介することでねらいとする価値への方向付けをする。

#### (2) 展開前半 お母さんの請求書が0円である理由を考える。

教師： なぜ、お母さんのせいきゅう書は0円だったのですか。  
 A児： 子どもにやってあげるのは、当たり前のことだから。  
 B児： お金よりたかしのことの方が大事で、たかしがいつも笑顔でいてくれるだけでいいと思っているから。  
 C児： お金のためにやっているのではないとたかしに教えたかったから。

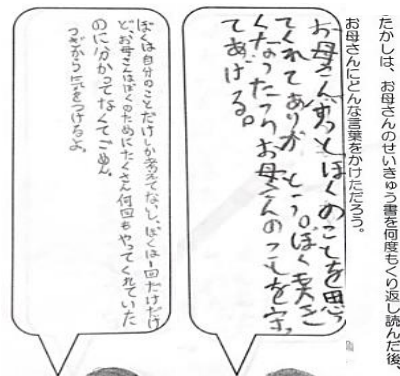
#### ○ 指導上の留意点・支援等

たかしとお母さんの請求書を比較しながら板書し、両者の気持ちや考え方の違いに着目させることで、お母さんの家族に対する思いが請求書の背景にあることに気付かせる。



## 展開後半 お母さんの思いに気付いたたかしの気持ちについて考える。

教師： たかしは、お母さんのせいきゅう書を何度も繰り返し読んだ後、お母さんにどんな言葉をかけただろう。  
 A児： お母さんの方がたいへんなのに。もらった五百円、返すよ。  
 B児： ぼくは、自分のことだけしか考えていなかった。ごめんね。  
 C児： お母さん、いつもぼくのことを思ってくれてありがとう。今度は、ぼくがお母さんのために何かをするよ。  
 D児： お母さん、ぼくもお母さんのことが大好きだよ。いつもありがとう。



### ○ 指導上の留意点・支援等

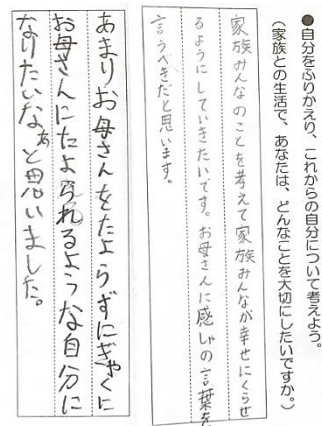
教師が母親役、児童がたかし役になって役割演技をすることで、たかしが家族に対する感謝の気持ちや協力することの大切さを忘れていたことに気付かせるとともに、たかしに共感しながら自分の家族との関わりについても考えることができるようにする。

## (3) 終末 今までの自分について考え、振り返る。

教師： 家族との生活で、どんなことを大切にしたいですか。  
 A児： お母さんに休む時間をあげるためにも、今度から自分にできることはしていきたい。  
 B児： やってもらって当たり前じゃなくて、ちゃんと感謝したい。  
 C児： 家族の役に立つことを自分からして、家族との時間をもっと大切にしていきたい。  
 D児： 思いやりの気持ちを大切にしたい。家族や兄弟が困っていたら助けてあげたいし、家族に感謝の気持ちを伝えたい。

### ○ 指導上の留意点・支援等

本時の学習をもとにして、今までの自分を振り返るとともに、これから家族との生活で大切にしたいことや、自分にできることについてワークシートに書かせる。



## 3 評価について

家族みんなで助け合って生活することの大切さに気づき、これから家族と生活する中で大切にしていきたいことや、自分にできることについて考えることができたか、児童の発言やワークシートの記述から評価を行う。

## 4 実践を振り返って

たかしとお母さんの請求書を比較しながら板書をすることで、児童は両者の思いの違いに気付くことができ、家族の支えや愛情に着目するきっかけになった。役割演技では、たかしに同化しながら自分の言葉で思いを伝える姿が見られ、自分の家族との関わりや家庭生活と重ねながら考えることができていた。

展開前半では、お母さんの請求書が0円である理由について考えることが難しい児童がいたため、問い返しや切り返しの発問が必要であった。今後も、道徳的価値についてより多面的・多角的に考えることができるような中心発問や補助発問について考えていきたい。

## 1 本授業におけるポイント

- 自分の立場や考えを明確にもてるような発問を取り入れたり、価値理解や人間理解について捉えやすくなるような板書をしたりすることで、異性との関わりについて問題解決的な学習ができるようにする。
- 学習内容を深めるための補助発問を話し合いの中で必要に応じて問うことで、多面的・多角的に考えることができるようにする。

## 2 授業の実際

1 主題・教材名 同性・異性に関係なく 「言葉のおくりもの」 (東京書籍)

2 ねらい

異性との関わりについて話し合うことを通して、異性を意識したり周囲の目を気にしたりして素直に行動できない難しさや異性を思いやって行動することの大切さに気付き、よりよい人間関係を築いていこうとする態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 同性や異性に対するイメージを共有する

教師： みんなにとって「同性」ってどんなイメージ？  
 A児： 友達。  
 B児： 親友。  
 C児： 気軽。  
 教師： 「異性」はどんなイメージ？  
 D児： しゃべりにくい。



○ 指導上の留意点・支援等

同性と異性のイメージの違いについて学習前の捉えを共有し、価値への方向付けができるようにした。異性と接する難しさを感じる具体的なエピソードを話す児童がいたので、共感できるかどうかを周りの児童にも聞くようにした。

(2) 展開 異性と友達のように関わってはいけないのか話し合う

教師： 異性と友達のように関わってはいけないの？  
 E児： よい。異性でも何とも思わない。  
 F児： 異性だとちょっと気にしてしまう。  
 C児： 周りがそういう雰囲気を作っている。  
 G児： 関わってはいけないというきまりはない。  
 H児： 関わらないといけないというきまりはない。

(中略)  
 教師： (すみ子が) 同性だったら同じことになる？  
 B児： いや、ならないと思う。

I児： 異性だから照れくさくて話せない。  
 A児： 気軽に仲良くしたい気持ちもある。照れくさい気持ちもある。  
 教師： 両方の気持ちがあるのか。そのことも踏まえて、すみ子の言動をどう思う？  
 A児： 異性と関わることを気にしていない。  
 G児： 何がいけないのかわからないと思っている。





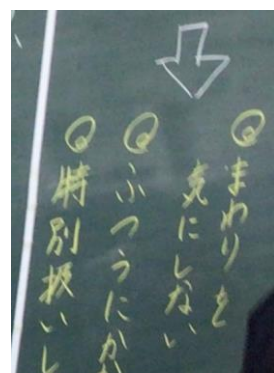
○ 指導上の留意点・支援等

教材の内容について簡単に整理して板書することで、必要な内容をみんなで共有できるようにした。異性同士が関わることを冷やかしているという教材中の問題場面を取り上げ、中心発問として「異性と友達のように関わってはいけないのか？」と尋ねた。このように発問することで「関わってよい」「関わってはいけない」という立場を決めて意見をもったり、「関わってよいと思うが恥ずかしい」というように人間理解を踏まえた意見をもったりできるようにした。その際、価値理解に迫る意見を赤色で囲み、人間理解に関わる意見を青色で囲み、視覚的に捉えることができるようにした。

話合いの状況に応じて「(すみ子が)同性だったら同じことになる？」と尋ねたり、すみ子の言動のよさについて尋ねたりするなど、補助的な発問をすることで話合いの内容を深められるようにした。

(3) 終末 異性と関わる上で大切なことを考える

教師： 異性と関わる上でどんなことが大切ですか？  
 J児： 周りを気にしない。  
 K児： ふつうに関わる。  
 教師： 「ふつうに」ってどういうこと？  
 K児： 異性でも同性と同じようにふつうに関わる。  
 L児： 特別扱いしない。

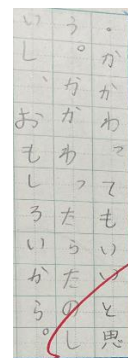
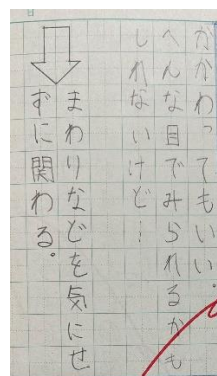


○ 指導上の留意点・支援等

導入時と同じことを問うことで、学習前と学習後の変容を感じることができるようにした。導入時に児童から出た意見の板書の下部に黄色のチョークで書いた。

3 評価について

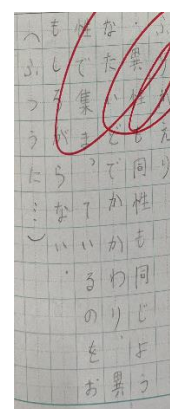
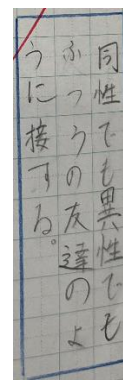
(評価の対象)  
 発言やノートの記事  
 (評価の視点)  
 ・異性と関わる時の難しさや異性を思いやって行動することの大切さに気付くことができたか。  
 ・これからどのようなことを大切にしていこうとしているか。



4 実践を振り返って

学習の中で「ふつうに関わる」という言葉が児童から出てきた。ノートの振り返りの記述を見ても、同性・異性に関係なくよい関係を作りたいという思いをほとんどの児童がもつことができていた。

しかし、発達の段階の関係もあり、そのような思いを行動に移していくことは簡単なことではない。恥ずかしさや抵抗を感じつつも異性と関わろうとする姿や関わっている姿をしっかりと見取り価値付けていきたい。



## 1 本授業におけるポイント

- 発問の工夫（物事を多面的・多角的に考える発問）
- 家庭や地域社会との連携（積極的な授業公開）

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 「席替え」（東京書籍）

### 2 ねらい

主人公が席替えのやり直しを提案した理由について話し合い、公正さを重んじることの大切さを理解し、公正、公平な行動を心がけようとする意欲を育てる。

### 3 学習指導過程

#### （1）導入 席替えの意義・意味について考える。

教師： 席替えは好きですか。理由も教えてください。

生徒A： 好きです。仲の良い人と近くになれると嬉しいからです。

生徒B： どちらでもないです。気が合う人と同じ班になった時、学校生活が楽しくなりますが、そうでない時もあるからです。

教師： では、席替えは何のためにすると思いますか。

生徒C： 話したことのない人とも話せるようになるためです。

生徒D： 黒板が見えにくい位置の時もあるし、寒かったり、暑かったりする場所もあります。いつも同じ場所だと困ることもあるし、飽きるし、得する人と損する人がいるからです。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

人間関係以外にも、場所（位置）、背の高さ・低さ、日当たり、視力など色々な要素から考えることで、席替えをする意義を「公平」という視点で考えることができる。

#### （2）展開 「私」が迷いながらも席替えのやり直しの提案を行った理由を考える。

教師： 自分が主人公なら、席替えをやり直すことを提案しますか。主人公が迷いながらも席替えのやり直しの提案を行ったのはなぜですか。

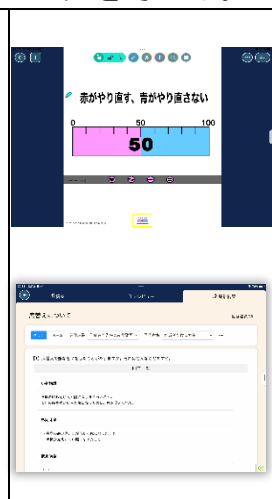
生徒A： このままでは、嫌な思いをした人が我慢することになるから。

生徒B： 反発されたり、いじめられたりしたらと思うと怖いけれど、決まりやルールを簡単に破るのは、人としてよくないから。

生徒C： みんなが気持ちよく過ごすために守らないといけないことがあると思ったから。

教師： みんなも今までに席替えで嫌な思いをしたことがないか、昨日アンケートをしました。では、その結果を見てみましょう。

（アンケート結果を見る）



○ 指導上の留意点・支援等

教材内容は身近で共感しやすいため、何が問題なのかを考えさせる中心発問を初めから問うた。1年生の誰もが「好きな者同士で座りたい」気持ちから、自分の弱さに負けて、不満を漏らしたり、利己的な行動を取ったりする場面があると思うが、アンケートを利用して実際に嫌な思いをした過去の経験を思い出した上で、学級目標に立ち返らせたり、今のクラスに必要なことを考えさせたりして、学級の組織全体のことを考えられる視点をもたせた。

(3) 終末 公正、公平なクラスを実現するための行動を考える。

教師： 公正、公平なクラスを実現するためには、どのようなことに気をつけたらいいでしょうか。

生徒A： 自己勝手な言動が、他の人の迷惑になったり、傷つけたりしていないか考えることだと思います。

生徒B： じゃんけんや投票、くじなどをする時は、「する」と決めた時点で、その結果に従うということだから、簡単に破ってはいけないということだと思います。

生徒C： 自分の中で好きな人、嫌いな人と決めつけしないで、人に接していきたいです。

生徒D： いつも同じ人とばかり話すのではなくて、色々な人と話すとういと思います。

○ 指導上の留意点・支援等

公正・公平の視点以外にも、思いやりや協調性などの意見も出てくると思われるが、「クラスの生活をよくするために」のねらいから外れないようにする。

### 3 評価について

○ 評価方法

道徳ワークシートやロイロノート、授業中の活動の様子から、公正、公平な行動について考えを深め、自分の日頃の行動や考えを見直そうとしているかなど評価する。

### 4 実践を振り返って

互いに高め合える良い集団を形成するためには、一人ひとりが自分のことよりも全体のことを考え、行動することが大切である。みんなで一歩ずつ前進していくため、自分のことより学級、学年、学校のために、正しい態度と行動によって、誰にでも公正・公平に接することができる生徒を育てていきたい。また、授業参観しなくても、道徳通信で、保護者が授業に参加する方法がある。下記は、本校の若手教員が別の教材で実際に出した道徳通信である。

- ・授業に対する保護者の感想や意見を、二次元コードを使ってアンケートし、参観週間など保護者が来校する時に、生徒と保護者の考えがわかる掲示物を掲示する。



## 1 本授業におけるポイント

- 導入で友達が良くない行いをしていたらどうするか問うことによって、本時の学習を自分事として考えることができるようにする。
- 遊具の順番を待っていた主人公の前に仲良しの友達が「入れて」と言ってきたとき、主人公は「入れる」か「入れない」か選択させることによって、立場を明らかにして話し合いを行うことができるようにする。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 よいこと、悪いことを区別して「それっておかしいよ」

(東京書籍)

### 2 ねらい

遊具の順番を守らない友達にどう対応するか話し合うことを通して、良いこと、悪いことを区別し、良いことは進んで行おうとする実践意欲と態度を育てる。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 ○×クイズを行う。

教師：	廊下を走ることは？
A児：	だめ。
教師：	スリッパをそろえることは？
B児：	良いこと。
教師：	みなさん、良いことと良くないことはだいぶ分かってきましたね。では、もしあなたの友達が良くないことをしていたら、どうしますか。
C児：	えー、分からない。教えてあげる。
D児：	難しいなあ。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

友達が良くない行動をしているのを見たり聞いたりしたとき、自分はどうか問うことによって、教材文を読んだときに、自分事として考えることができるようにする。

#### (2) 展開前半 横入りしようとした「まさくん」を自分の前に「入れる」か「入れない」か話し合う。

教師：	まさくんに「入れて」と言われて、「ぼく」はどうしたでしょう。
A児：	入れない。理由は、順番ぬかしは良くないから。
B児：	入れない。入れたら後で後悔するから。
C児：	入れる。もしかしたら、まさくんは、良くないことって分かってないかもしれないから。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

教材文を途中で止めることで、主人公がどのような葛藤をしていたのか想像することができるようにする。

ワークシートに自分の考えとその理由を記入させることで、立場を明らかにして話し合いに臨むことができるようにする。

「まさくん」がよく昼休みに一緒に遊ぶ友達であることを確認することによって、今後の人間関係に関わってくることを想像できるようにする。

横入りは良くないことか問うことによって、「ぼく」も周りで遊んでいる人も嫌な気持ちになることに気付くことができるようにする。

「入れない」ことを選択すると、誰にとって良いことになるのか考えさせることで、「まさくん」にとっても学習する良い機会となることに気付くことができるようにする。

### (3) 展開後半 教材文の残りを読み、友達が良くないことをしているところを見たらどうするのがよいのか話し合う。(価値理解)

教師：	まさくんにきちんと伝えられて「ぼく」はどう思っているでしょう。
A児：	すっきりしている。
B児：	言えて良かった。でも、まさくんを心配している。
教師：	もし、友達が良くないことをしているのを見たらどうしましょう。
C児：	教えてあげる。
D児：	ちゃんと伝える。理由も教えてあげる。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

まさくんが「ごめんね。」と言ったことに着目させることで、良くないことを指摘された時は、受け入れることの大切さに気付くことができるようにする。

### (4) 終末 自分の行動を振り返る。

教師：	このお話のように良いと思ったことをきちんと伝えることができたということはありませんか。もしくは、「まさくん」のように教えてもらって素直に行動できたことはありませんか。
A児：	掃除の時間に、箒を上にあげている人に「箒はこうやって使うよ」と教えてあげたら、すぐに一緒に掃除をしてくれた。(ワークシートより)

## 3 評価について

ワークシートに次の視点で本時の自己評価をさせる。(当てはまるものに○をつける。)

- ・よりよい自分になるために大切なことが見つかった。
- ・学習前と気持ちや考えが変わったことがあった。
- ・これからの自分にできそうなことはどんなことか考えた。

今回はその後、自分の考えや行動を振り返り、考えたことを記述させることで、本時の道徳的価値への理解の深まりと実践意欲や態度を見取る。

## 4 実践を振り返って

「それっておかしいよ」は身近な題材であるため、普段教材文の理解が難しい児童にとって自分事として考えやすかった。今回、「ぼく」の葛藤する場面が教材文にはなかったため、自由に考え、話し合うことができた。教材にはない場面を想像することによって、より自己投影できるのではないかと考える。

教材文の登場人物の中には、良くない行動をとってしまう人物が描かれていることがある。今回の場合は「まさくん」である。まさくんのことを、ただ悪い行いをした人物として捉えるのではなく、そこに人間のもつ弱さを感じさせることが大切だと感じた。まさくんが順番を待てなかった気持ちに寄りそう時間を設けることができると、より相手の気持ちを考えた発言が出たのではないかと考える。

～国際理解、国際貢献～

山口市立白石中学校

1 本授業におけるポイント

- 全員が自分の意見をもって話し合いに臨めるよう、タブレットに意見を記入した後に発表するようにする。
- 国際理解に対する考えを深め、より自分事として捉えられるよう、英語科（マラウイ共和国とのオンラインによる交流）、図書司書（マラウイ共和国に関する本の紹介）との連携を図る。

2 授業の実際

1 主題・教材名 「むこう岸には」（光村図書）

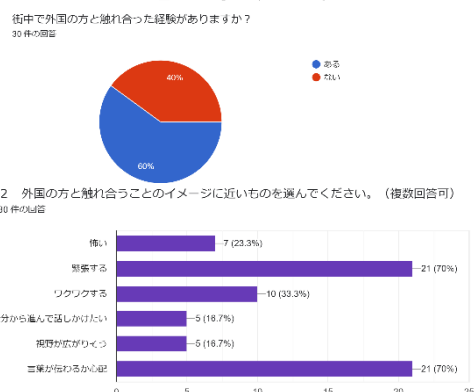
2 ねらい

他国の人々や文化を理解するとともに、互いに尊重し合い、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献しようとする心情や態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 外国の方や外国の文化についての事前アンケートを共有する。

教師： 以前行った外国の方や外国の文化についてのアンケートの結果をみてどう思う？  
 生徒A： 言葉の壁は大きい。でもワクワクして話しかけることができる人もいる。  
 教師： 今日の5時間目にマラウイ共和国の子どもたちと交流するけれどどんな気持ち？  
 生徒B： 自分たちのことを伝えるのが楽しみ。  
 生徒C： マラウイの文化や日本との違いを知りたい。  
 教師： 今日の交流も国際交流の一環だけど、真の国際交流ってどんなものなのかな？



○ 指導上の留意点・支援等

全体的に、外国の方に対して肯定的に捉えていることを確認し、相違点と共通点の視点があることを示唆しておく。

(2) 展開 「この川に橋をかけるんだ。」という言葉に込められた2人の思いを考える。

教師： 「この川に橋をかけるんだ。」という言葉には、2人のどんな思いが込められているのだろう。  
 生徒A： 今みたいに、うわさと偏見だけで決めつけるのではなく、まずはお互いが実際に関わってみることが大切。親にも相手の国の良さを知ってもらいたい。  
 生徒B： 親から「行くな。」とか「私たちとは違う。」とか言われているから、偏見をもつのも仕方がない。  
 生徒C： 噂だけでニコラスたちの家族と私たちの家族は違うと決めつけていたけれど、本当はみんな優しくって同じだったから仲良くしたいという気持ち。  
 教師： 何が同じだったの？  
 生徒C： お父さんも同じ仕事だったし、おばあちゃんも趣味が一緒だった。子どもたちの遊びも同じだった。同じような生活をしていた。

生徒D： 簡単に岸を行き来できるようにして、互いのことを理解し合いたいという気持ち。  
教師： 「簡単に」というところがポイントかもね。  
生徒E： 親に内緒で行くのではなくて、堂々と行きたいという思い。  
教師： 「堂々と」もポイントだね。

○ 指導上の留意点・支援等

- ・最初は偏見をもっていた女の子が、共通点に目を向けたことで考えが変化したことをおさえる。
- ・2人の思いを「意識のもち方」「理想の社会」「自分たちの言動」など視点ごとにまとめて板書し、全体で共有しやすくする。

**(3) 終末 他国の人々と理解し合うために大切なのは、どのような心が考える。**

教師： 他国の人々と理解し合うためには、どんな心が大切だと思いますか？  
Aグループ： 見た目だけで判断して、自分と違うところを見るのではなく、似ているところや共通点を見つけてみることも大切。  
Bグループ： 噂や偏見だけで決めつけるのではなく、実際に会って自分で確かめ互いを知ることが大切。最終的には自分で判断して交流するべき。  
Cグループ： 理解し合うためにはきっかけが必要。そのきっかけは前向きな好奇心から生まれる。  
Dグループ： 文化や見た目が違うのは当たり前で、異なるところはよいところだと思える気持ちが大切。人間は心をもっているから、つながることができるはず。  
Eグループ： 私にとって、他国を理解するのは一苦労。他国の文化をネットで調べることが理解する近道だと思う。  
Fグループ： 文化が違っていても「私たちとは違う」ではなく「私たちと同じところもある」という見方が大切だと思う。違うところばかり目につくと、近づきにくかったり敵対視してしまったりしがち。

○ 指導上の留意点・支援等

- ・差別や偏見が存在することを認識した上で、理解し合うための心の在り方を考えるようにする。

### **3 評価について**

○他国の人々と理解しあうために大切な心を、自分自身について振り返りながら考えているかを発言やワークシートから見取る。

### **4 実践を振り返って**

以前から外国の方や文化に対して興味をもち、肯定的な考えをしている生徒が多かった。しかし、肯定的に捉えているつもりでも、間違った情報や噂が飛び交う環境にいと、偏見をもったり差別をしたりしてしまう怖さも感じていた。今回、道徳の学習後に英語科の取組でマラウイ共和国の子どもたちとオンラインでの交流を行った。生徒たちは意欲的に交流し、「言葉や文化が違って、同じことに共感でき、同じ仲間だと気づかせてくれた。」「意外にも色々話せてびっくりした。外見は違って同じ内容で笑えたからやっぱり同じ人間だと改めて思った。」など共通点に目を向けており、道徳の学びが生きていると感じた。さらに、図書司書によるマラウイ共和国の実態を知る本の紹介があり、真のマラウイの生活を知ることによって国際貢献の視点をもてる生徒もいた。改めて教育活動全体を通じて道徳教育を進めていく重要性を感じる事ができた。

## 1 本授業におけるポイント

- 事前に「広い心」についてアンケートを行うことで、児童一人ひとりの「広い心」とはどのような心なのか、「広い心」を感じた経験を振り返る機会を設ける。また、本時で学ぶ道徳的価値である「広い心」について問題意識をより高くもてるようにする。
- 登場人物の気持ちを考えることを通して、相手の立場に立って物事を考えることの大切さや、人に対しての寛容さであることのよさや価値に気付かせ相手意識を強化できるようにする。
- ICTの効果的な活用として事前にロイロノートで導入時に使用するアンケートをしたり、自分が順庵の立場だったらどのように行動するか考える場面で、心の数直線を表したりすることで、子どもたち一人ひとりの考えや心情を視覚的に把握する。

## 2 授業の実際

1 主題・教材名 名医、順庵（新しい道徳5 東京書籍）

2 ねらい

自分と異なる意見や立場を尊重し、広い心で人と接しようとする態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 「広い心」とはどのようなことなのか、ロイロノートのアンケートを活用して考えを深める。

教師： 「広い心」とはどんな心だと思いますか？

A児： やさしい心 人をおもう心 人のいたみがわかる心

B児： 誰にでも優しい心

C児： 広い心とは、友達や家族のことを大切にできる、優しい心のことだと思います。



○ 指導上の留意点・支援等

事前にICT(タブレット)を活用してアンケートを実施する。集計結果を回答一覧にしてまとめて提示する。友達の「広い心」に対する考えを知ることによって「広い心」について問題意識をより高くもてるようにする。

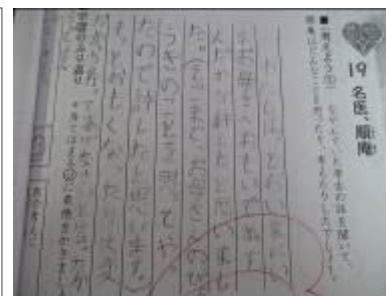
(2) 展開 「名医、順庵」を範読して場面の状況について確認して、登場人物の心情をプリントにまとめる。

教師： なやんでいた孝吉の話聞いて、順庵はどんなことを思ったり、考えたりしたでしょう。

A児： お母さんの病気のことを思ってやってしまったので許したのだと思います。

B児： 孝吉は、お母さんのためにやったからしょうがないと思ったと思います。

C児： 孝吉がしたことはいけないことだけど、自分のことと違って、お母さんのために盗んでしまったのだから気持ちは分かるけど、次からはしないでほしいと思った。





○ 指導上の留意点・支援等

「孝吉はなぜ元気がなかったのか」等を問い、病床の母を思う気持ちと順庵の元を離れることへの迷いを対比させて板書を行い児童の理解を深めさせる。

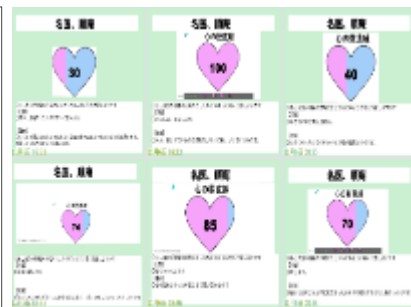
(3) 終末 ICT を活用して身近な場面に置き換えて考えをまとめる。

教師： もし、自分が順庵の立場だったらどのように考えて行動しますか。

A児： 僕が順庵だったら許しません。理由はいくらお母さんのためでも高価なものを盗んでしまったからだめだと思います。まずは、相談してくれたらいいと思います。

B児： 許すと思います。真剣に考えていたし命に関わることだからです。

C児： 私も許すと思います。どうしてかという、自分もお母さんの命が危なかったら同じ行動をするかもしれないからです。



○ 指導上の留意点・支援等

自分が順庵の立場だったらどのように行動するか考える場面で、子どもたち一人ひとりの考えや心情を視覚的に把握し価値付けるために、ICT(タブレット)を活用しハートの形の心の数直線を表すようにする。また、数直線を表すことで、その数値になる理由を多面的・多角的に深く思考することができる。

### 3 評価について

- 自分が順庵の立場だったらどのように行動するか考えロイロノートに心の数直線と理由をまとめる。(ロイロノート・発表)
- 学習を振り返りなぜ「広い心」が大切なのか自分の思いをプリントにまとめる。(プリント・発表)
- 道徳学習一覧の振り返り・自己評価(プリント)



### 4 実践を振り返って

#### 成果

- ・ 事前に日常生活の中の具体的な経験から考える「広い心」についてアンケートを行うことで、導入時に児童一人ひとりの「広い心」とはどのような心なのか、「広い心」を感じた経験を振り返る機会を設けて道徳的価値である「広い心」について問題意識を高くもてるようにすることができた。また、終末に抱いた考えと最初の自分の考えとを比較させ、ICTを活用して、もし自分が順庵の立場だったらどのように考えて行動するかと自分事に置き換えて考えをまとめ、「広い心」とはどのようなものなのか深めることができたと考えられる。

#### 課題

- ・ 物語の時代背景や教材文で出てくる高麗人参の扱い方に難しさを感じた。また、「主体的な学び」に導くために、孝吉の葛藤する気持ちや「広い心」の児童の捉え方や授業展開の中での捉え直しにも教材をどのように生かしていくのかが今後の課題である。
- ・ 「対話的な学び」に導くために中心発問・終末でまとめた後に、ペア・グループ等での話し合い活動ができればよかったが、時間的に困難だった。学習活動を構造的かつ柔軟に考える必要がある。

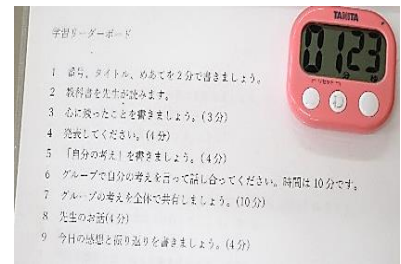
## 1 本授業におけるポイント

### ○ ICTの活用

主題について自分のこととして考えることができるように、ロイロノートのアンケート機能を用いて、自分の言動を振り返る場面を設定した。

### ○ リーダー学習

児童が、自分たちで授業をつくるという意識をもち、授業を進行したり、発表をつなげたりすることができるように、リーダーにストップウォッチと進行表を渡して学習を進めた。その際、教師は児童の見取り、価値付け及び個別支援に努めるようにした。



## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 誰に対しても公平に「となりのせき」(東京書籍)

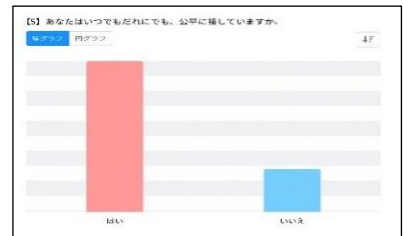
### 2 ねらい

主人公の言動について話し合う活動を通して、誰に対しても公平に接する道徳的態度を育てる。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 本時の主題に関するアンケート結果を見て、公平について考える。

教師： 「公平」ってどういうことですか。  
 A児： みんなに同じように接することです。  
 教師： そうですね。公平についてみなさんのアンケート結果はこうなりました。(右図)  
 B児： 「している」と答えた人が多い。

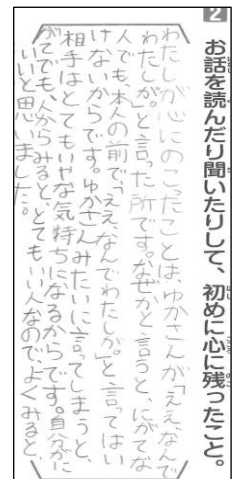


### ○ 指導上の留意点・支援等

事前アンケートの結果をスクリーンに映し出すことで、本時の主題を自分ごととして考えることができるようにする。

#### (2) 展開 ア 教材文を読み、心に残ったことを交流する。

リーダー： 心に残ったことを書きましょう。(3分後)発表してください。  
 C児： 先生は何か言いたそうだったのに、なぜ何も言わなかったのかなと思いました。  
 D児： 自分が苦手な人でも、相手が傷つく言葉は言ってはいけないと思いました。  
 教師： 「ええ、なんでわたしが。」と言った時と、「自分の態度が恥ずかしく思えた。」のところは私の気持ちが違いますね。Eさんが気づいていることを書いていましたね。発表してください。  
 E児： 苦手な人のことを苦手と言ったらダメだけど、最後にはその人のよいところを知ることができてよかったなと思いました。  
 教師： 「ええ、なんでわたしが」のところで、わたしはどんな気持ちですか。  
 A児： たけしくんのがが苦手と感じていると思います。



### ○ 指導上の留意点・支援等

- ・ 机間指導で、書いていることを価値付け、発表しやすくする。

- ・ 席替えのときと帰り道の主人公の気持ちの変化をおさえるようにする。

### イ お母さんが言った「もっと大事なこと」について話し合う。

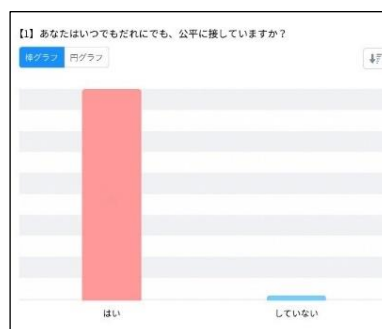
教師： お母さんが言った「もっと大事なこと」とは何でしょうか。  
 リーダー： 自分の考えを書きましょう。（4分後）グループで話し合ってください。時間は10分です。  
 C児： みち子さんのときとたけしくんのときとで態度が違うので、平等に接することだと思います。  
 D児： 苦手でももっと仲良くしたらよいということだと思います。  
 E児： 苦手な人がいても助けてあげることだと思います。  
 F児： 相手の立場や気持ちを考えることだと思います。  
 G児： 誰にでも同じように接することだと思います。  
 A児： 相手の気持ちを分かり合うことだと思います。  
 B児： 思っていることを口に出さないことと、誰にでも平等に接することだと思います。  
 H児： 相手の気持ちや立場を考えることだと思います。  
 リーダー： （10分後）グループの考えを全体で共有しましょう。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

班で意見を交流し、意見や理由をまとめることにより、話し合いが深まるようにする。

### (3) 終末 本時のまとめと振り返りをする。

※ 事前アンケートと同じアンケートを実施した後  
 教師： では、結果を出します。全員が「している」と答えましたね。授業前は「していない」の人もいたので考えが変わった人がいますね。考えが変わった人は、なぜ変わったのかを振り返りに書いてみましょう。  
 リーダー： 今日の感想と振り返りを書きましょう。  
 E児： これからは友達と接するときに、やさしく平等に接したいと思いました。  
 C児： 自分は何も思わなくても、自分が言った言葉で人を傷つけてしまうことがあるから気を付けようと思いました。  
 H児： 席替えで苦手な人と隣になっても、その人のよいところを見つけるチャンスだと思いました。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

- ・ もう一度アンケートをとり、授業前後で考え方の違いを比較させる。
- ・ 本時の学習を元にして、今までの自分を振り返ると共に、これから気を付けたいことや大切なことを考えさせる。

## 3 評価について

- 評価方法  
 振り返りに書いてある感想や考えをもとに、児童が公平な態度についてどのように考えているのか見取る。（道徳ノート）

## 4 実践を振り返って

道徳の授業でリーダー学習を行ったことで、教師が児童の考えを見取ったり話し合いの際に価値付けたりすることができた。また、児童は、グループや全体での話し合いを通して他者の考えを知り、考えを深めることができた。しかし、話し合いに差が出ないように、グループ編成を工夫する必要がある。今後は少人数編成にしたり途中でメンバーを入れ替えてみたりする等、様々な話し合いの方法を試していきたい。

ICTの活用においては、アンケート結果をグラフで示したが、内容によっては個人のコメントを一覧で示す等すれば、主題について一層深められるかもしれない。

## 1 本授業におけるポイント

- 地域の方々に各班に一人ずつついてもらい、子どもたちへ意見を述べてもらうことで、多角的な意見に触れさせる。
- ロイロノートを用い、意見を即時共有し、友達の意見を見比べ、よいと感じるものを探させることで、多角的な意見に触れさせる。

## 2 授業の実際

- 1 主題・教材名 社会のきまり「雨のバスでいりゅう所で」（光文書院）
- 2 ねらい

よし子さんの一連の行動と、お母さんや他の乗客の態度から、よしさんの行動について考える活動を通して、きまりやマナーを守らないことは、周りの人に嫌な思いをさせることがあることに気付き、きまりやマナーを進んで守ろうとする心情を育てる。

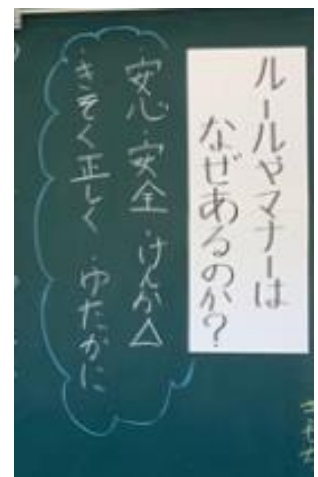
## 3 学習指導過程

- (1) 導入 マナーがなぜあるのかを考え、交流する。

教師： ルールやマナーはなぜあるのでしょうか。 A児： 安心、安全な生活を送るため。 B児： けんかをしないように。 C児： 規則正しく、豊かな生活を送るため。
---

- 指導上の留意点・支援等

身近なルールやマナーを想起させることで、本時に取り組む課題に対して意識を高める。

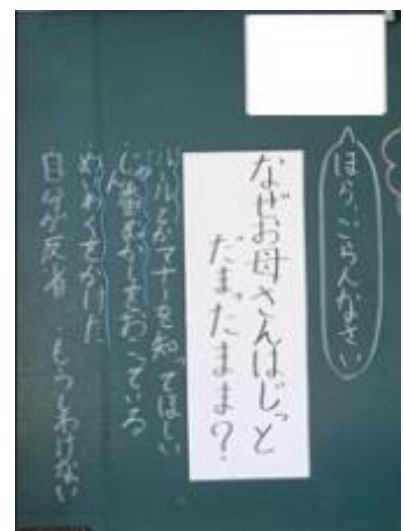


- (2) 展開 登場人物の行動や、気持ちについて考える。

教師： お母さんは、なぜだまっただまだったのでしょうか。 A児： ルールやマナーを知ってほしい。 B児： 順番を抜かしたことを怒っている。 C児： なぜマナーを教えてあげなかったのだろうと自分が反省した。
---

- 指導上の留意点・支援等

- ・お母さんの気持ちを考える際に、地域の方から意見を聞くことで、立場の違う意見に触れることができるようにする。
- ・他の乗客が、周りの人のために順番を守ったこと



を押さえることで、マナーもルールと同様に自分たちの暮らしを守るためにあることに気付かせる。

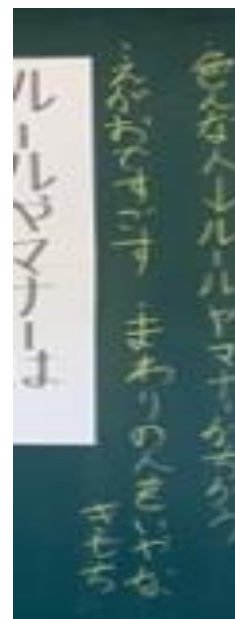
・地域の方に、それぞれの班に入ってもらい、児童と交流してもらうことで、児童がさまざまな立場の意見に触れられるようにする。

### (3) 終末 学習の振り返りを行う。

教師： ルールやマナーはなぜあるのでしょうか？  
A児： みんなが笑顔ですごすため。  
B児： 周りの人を嫌な気持ちにさせないため。  
C児： 世の中にはいろいろな人がいて、人によってルールやマナーが違うから、教えてあげることも大切。

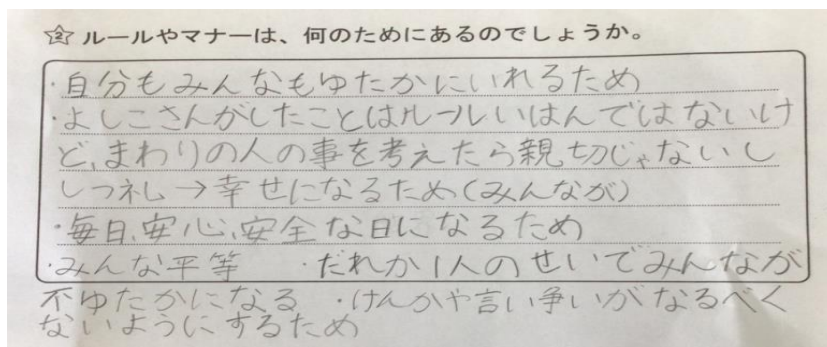
#### ○ 指導上の留意点・支援等

- ・タブレットで振り返りを提出させ、最初の意見と変わった場合はカードの色を変えさせる。
- ・どの意見がよいと感じるかを問うことで、主体的に友達の意見を自分の意見と比べさせる。



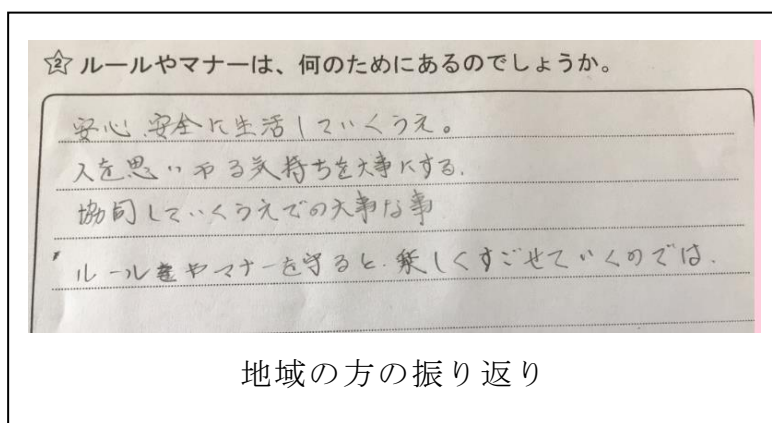
## 3 評価について

よし子さんをはじめとして、お母さんや他の乗客の思いから、マナーを守ることの大切さについて考えられるようになったかを、授業中の発言や、ワークシートの振り返りから見取る。



## 4 実践を振り返って

今回の実践では、地域の方々に授業に招き、子どもたちと一緒に道徳の授業を受け、考え、発表をもらった。児童と交流する中で、児童は新しい気付きが多かったように感じた。児童に、特に好きな振り返りは何か問うと、地域の方の振り返りを挙げる児童もいたことから、気付きがあったことが伺える。地域の方々に授業に招き、一緒に授業を受けてもらうことで、児童を多角的な考えに触れさせることはできた。しかし、発問づくりには難しさを感じた。発問の答えを、地域の方々が子どもたちに教えるようなものではなく、共に考え、議論できるものにするためにはどのようなものがよいのか、という難しさを感じた(本時は、よし子さんを主語とした問いではなく、お母さんを主語とした問いとした)。



地域の方の振り返り

## 1 本授業におけるポイント

- 自由に意見を出し合える雰囲気づくり
- 発問の工夫

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 安全への心構え「疾走、自転車ライダー」（日本文教出版）

### 2 ねらい

身近に起こりうる交通事故をもとに、安全や危機管理の大切さを理解し、安全で調和のある生活を送ろうとする実践意欲と態度を育てる。

### 3 学習指導過程

#### （1）導入 本時の学習課題を知る。

教師：	みなさんは、どんな時に自転車に乗りますか？あるいは、日頃、どのような人たちが自転車に乗っているのを見ますか？ペアで話してみましょう。 では、教えてください。
生徒A：	塾に行くときに乗ります。
生徒B：	友達と遊びに行くときに乗ります。
生徒C：	高校生や、子どもを乗せている人の自転車をよく見ます。
教師：	そうですね。おそらく、だれもが自転車に乗ったり、見たことがあったりします。実は、この自転車にも法律があることを知っていますか？車と同じでスピードがあるのです。クイズを今からやってみましょう。…いくつか分かりましたか？
生徒A：	全問正解！
生徒B：	5問。
生徒C：	3問。
教師：	さあ、今までの生活を振り返って、自転車でひやりとしたことはありますか？今の○×問題を意識しながら、今日は行雄くんの行動について何が問題か、考えていきたいと思います。（範読）

#### ○ 指導上の留意点・支援等

「子ども自転車運転免許教室クイズ」（全日本安全協会）を通して、自分のことを振り返らせる。また、中学生や高校生が起こしている自転車事故について紹介し、いつ自分が加害者になってもおかしくないことを意識させる。

#### （2）展開1 何が問題だったのか4人（3人）グループで考える。

教師：	行雄くんの何が問題だったのでしょうか？
1班：	スピードの出し過ぎ。周りを見ていない。先のことも見えてなかった。迷惑になっていた。思いやる心が足りなかった。
2班：	人がいるのにスピードを出して走っていた。丁字路で止まらなかった。周りの歩行者を考えずに自転車をこいでいた。
3班：	スピードを出し過ぎていたり、角で止まらなかったり、人の横をすごいスピードで抜かしたこと。父との約束を無視したこと。自分の都合しか考えなかったこと。他人への気配りが無かったこと。場所で速度を変えること。
4班：	自分は安全運転していると思い込み、危ない運転をしていた。スピードを出し過ぎていたこと。人に迷惑をかけたこと。

- 5班： 迷惑や安全面を考慮していないところ。スピードの出し過ぎ。曲がり角の不注意。  
下り坂で常にブレーキをふんでいないこと。歩行者の隣を乗ったまますり抜ける。  
6班： 自転車のスピードを出し過ぎていたこと。周りのことが見えていない。  
7班： 自己中心的な考えをしている。スピードの出し過ぎ。  
8班： スピードを出し過ぎていたこと。

○ 指導上の留意点・支援等

意見を出す場では、4人で役割分担をさせる。行雄くんが自転車事故にあった原因ではなく、乗る前の心構えがどうだったかに触れて考えさせる。

**(3) 展開2 どうしたら解決できるのか4人(3人)グループで考える。**

教師： たくさんの問題点が出ました。これら問題点を解決するためには、どうしたらよいでしょうか？

- 1班： 相手を思いやり、自己中心的な運転を直す。安全運転は何か考える。  
2班： 周りをよく見てスピードを出し過ぎないようにする。ルールを見直す。標識を見る。思いやりをもつ。  
3班： 約束を守る。他人視点でも考えること。遅刻しそうでもスピードを出さない。どんな時でも、自分のことだけを考えずに、スピードを出し過ぎたらどんなことが起こるか意識して自転車に乗る。  
4班： スピードを出し過ぎないように常にブレーキをかけられるようにしておく。坂ではスピードを出さないようにする。常に安全運転を意識する。

○ 指導上の留意点・支援等

自分たちのグループで出した問題の解決方法を考えさせる。

**(4) 展開3 本当の安全運転について4人(3人)グループで考える。**

教師： 解決方法が出ました。みんな、どうしたら良いかわかっています。では、それでもなお事故が起きてしまう。解決方法のように自転車を運転したら良いとわかっているのに、それができない。本当の安全運転のために、どうしたら良いのでしょうか。

- 6班： あせっていてもスピードを出さない。(軽はずみ×)焦りや欲にまどわされない。  
8班： 他人事に考えず、お互いに周りを見て、危険なことが起こらないように協力し合う。

○ 指導上の留意点・支援等

自分の欲望や衝動の赴くままに動くと大変なことになるので、それをわきまえる「節度」と、自己を統率する「節制」の大切さを伝える。

**(5) 終末 今日「考えたこと」を書く。**

教師： 本当の安全運転になるために、どんなことが必要だろう。

生徒A： まず、時間にゆとりをもつ。自分のあせりや欲は危険なことを引き起こしてしまうから。それに、自分は大丈夫と思わないことも大切。

○ 指導上の留意点・支援等

自分の生活を振り返り、自転車も含め安全に生活しているか考えさせる。

### **3 評価について**

- ワークシートの振り返りの記入において、自分自身の生活を振り返り、今後の生き方につなげていこうとしているかを見取る。  
○ ワークシートを回収し、考えを深めている記述には、赤ペンでアンダーラインを引いて返却を行う。

### **4 実践を振り返って**

生徒自身が自転車をどう使用していたか見つめ直すよいきっかけとなる教材だった。発問が多かったのもう少し絞って、深める時間をとりたい。

## 1 本授業におけるポイント

- 読み物資料「古いバケツ」を活用して授業を行い、男女仲よくすることの大切さや、なぜ仲よくしなければならないのかについて考えさせる。
- 男女仲よくすることがなぜ難しいのか、自分たちの考えと物語中の人物の考えを比較しながら考える。男女仲よくすることでどんなよさがあるのか、逆に仲よくできないとどんな問題があるのか、多角的・多面的な思考を促す。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 男女仲よく 「古いバケツ」 (日本文教出版)

### 2 ねらい

異性を正しく理解し、共に活動することの喜びに気付き、お互いのよさを認め、支え合っていこうとする態度を養う。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 「仲がよい」とはどういうことか考える。

教師： みんなにとって、「仲がよい」ってどういうこと。

A児： 一緒に遊ぶ人が仲がよい人です。

B児： 自分にとって信用できる人が仲がよい人です。

C児： 自分のことを話せる人です。

教師： 事前アンケートでは、異性と仲よくすることができますか、という問いに対して、「できる」と答えた人は12%でした。他の人は、「できるときとできないときがある」、「できない」と答えていました。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

事前アンケートの結果を示すことで、自分ごととして考えやすくする。

#### (2) 展開 教材を読んで、男女が仲よくするために必要なことを考える。

また、今の自分が男女仲よくできているかを思考ツールで表現する。

教師： (教材から)

どうして物語の中の男女は対立してしまったのでしょうか。

A児： 女子のことが気に入らないから。

B児： 男子はさぼっているくせに、新しいバケツを使おうとしたから。

C児： お互いに新しいバケツが使いたかったから。

教師： どうして対立の心が生まれるのでしょうか。

D児： 考え方が男子と女子では違うから。

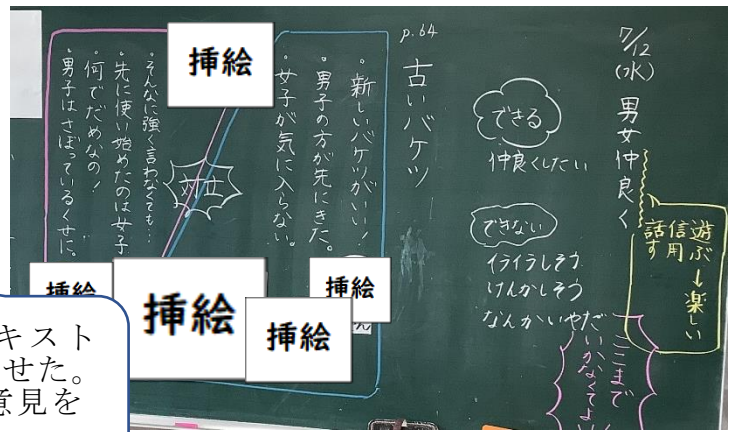
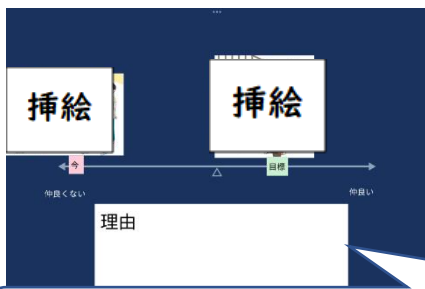
E児： 強く言ってしまって、仲直りのチャンスを失ってしまったから。

教師： 「男女仲よく」できているか、という点で、今の皆さんの立ち位置を示してください。また、これからどうしていきたいかも示してください。

(ロイロノートの共有化機能)

児童： (ロイロノートで記述する)





心情メーターをロイロノートのテキストで児童一人ひとりに操作させ、提出させた。このカードは提出箱に集まるので、意見を集約しやすい。

○ 指導上の留意点・支援等

児童の意見を相互に見られるようにして、他者の意見に簡単にアクセスできるようにすることで、誰もが意見を記述しやすくする。

(3) 終末 振り返りをして、自分自身の生活を見直す。

教師：今日の学習の振り返りを書きましょう。  
児童：（振り返りを記述する。）

○ 指導上の留意点・支援等

振り返りをどのように書いたらよいか分からない児童には、「これまでの自分はどうか」、「これからの自分はどうか」、「それはなぜか」と、視点を示すことで、振り返りを記述しやすくする。

### 3 評価について

- ・ロイロノートの共有化機能を使うことで、児童の意見が端末上に残る。その記述から、互いのよさを認め合おうとしているか、支え合おうとしているかを見取ることができる。
- ・道徳ノートの記述から、互いのよさを認め合おうとしているか、支え合おうとしているかを見取ることができる。
- ・道徳ノートを提出する際に、記述した内容について児童と確かめる。どういう理由があるのか、どんなことが大切だと思ったのかななどを、必ず一人ひとりと話す。

### 4 実践を振り返って

テーマについての自己評価は、匿名で意見を提出することができるので、自分の意見を人に見られる恥ずかしさや抵抗感を軽減することができた。また、教師は手元で全員の意見を見ることができるので、机間指導に比べて、意見の比較・検討・意図的指名などをスムーズに行うことができた。しかし、タブレット端末を活用する際には、どうしても手元での作業が増えてしまい、子供たちが自分の意見を交わす時間は少なくなってしまう。今回の実践事例でいえば、自分たちが作成したカードをもとに話し合ったり、葛藤について伝え合ったり、という活動を意図的に仕組まない限り、自分の中だけで（もしくは少しの他人の意見だけで）完結してしまうような、広がりや深まりのない学習になりかねないと感じた。

～思いやり、感謝～

萩市立萩東中学校

1 本授業におけるポイント

- 生徒全員の考えを公表させ、板書することで多面的・多角的な考えがもてるようにする。
- 事前にアンケートを実施し、生徒の実態の把握を行う。
- 教科書の内容理解にとどまらないような中心発問をし、生徒自身が自分ごととして考えることができるようにする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 思いやりの心「最後の年越しそば」（廣済堂あかつき）

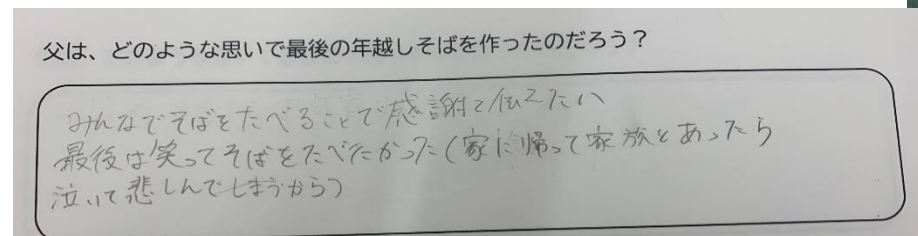
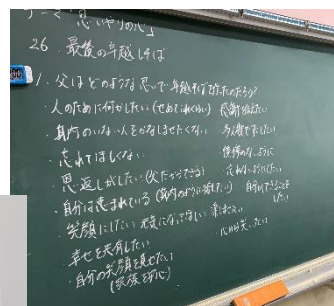
2 ねらい

最後の帰宅をやめて、お年寄りに年越しそばを振る舞う父の生き方について考えることを通じて、思いやりの心の大切さに気づき、温かい人間愛の精神をもって、人と人との支え合いを大切にする道徳的心情を育む。

3 学習指導過程

(1) 導入 父の心情を考える

教師： 父は、どのような思いで最後の年越しそばを作ったのだろう？  
 生徒A： 感謝を伝えたい。  
 生徒B： 自分は恵まれている。身寄りのない人を笑顔にしたい。  
 生徒C： 自分の笑顔を家族に見せて安心させたい。

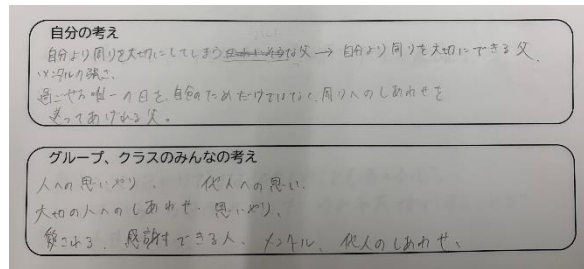
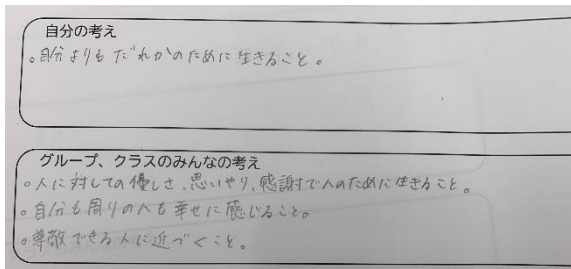


○ 指導上の留意点・支援等

発問に対する考えを生徒全員に発表させた。教師が共感的な反応や問い返しの質問をしながら板書した。生徒は多面的・多角的に父の心情を捉えることができた。

(2) 展開 筆者が学んだことを考える

教師： 私（筆者）が学んだ「人間が一生涯の中で自分に求めるもの」とは何だろう？ 個人で考えた後グループで話し合しましょう。  
 Aグループ： 周囲を笑顔にできる思いやりの行動。  
 Bグループ： 自分だけでなく、他の人の幸せを考えて行動すること。  
 Cグループ： 人に対して愛情をもって接することが、周囲から愛されるようになること。



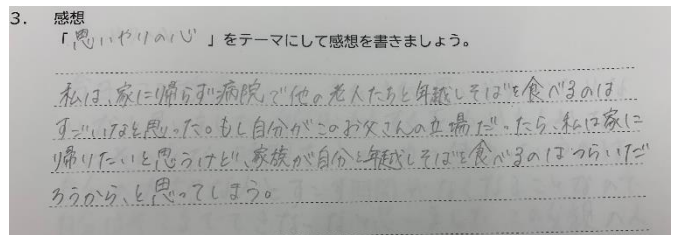
○ 指導上の留意点・支援等

グループ活動では、意見を1つにまとめるのではなく、様々な意見を練り合わせながらまとめるように指示を出した。各グループの意見を板書させたのちに発表させた。発表の際には、板書した事柄を述べるだけでなく、グループ内でどのような意見交換が行われたかも発表させた。教師が、グループの発表に対して問い返しの質問等を行い、様々な考えを共有するようにした。

各グループの発表後に、参考になった考えや、共感した考えをワークシートに記入させた。

(3) 終末 「思いやりの心」をテーマとして感想を書く

教師： 今日考えたことを踏まえて、「思いやりの心」というテーマで感想を書きましょう。



○ 指導上の留意点・支援等

自分の考えについて、授業の始まりと終末を比較し、深まりや広がりがあったかどうか記述させた。感想を記入する途中で、数名の生徒に発表させた。クラスメイトの感想を聞き、さらに考えを深めさせ記入を続けるようにした。

3 評価について

○ 評価方法  
話し合い活動や、ワークシートへの記述から「思いやり・感謝」に対しての考え方に広がりや深まりがあったかどうかを評価する。

4 実践を振り返って

道徳科の授業では生徒が自分の考えをもち、発言することを重視している。そのため、次の3つのポイントを念頭におき授業を展開している。1点目は、全員が発言する機会を作ること、2点目は教科書の内容（時代背景や登場人物の葛藤の対象）を理解させること、3点目はグループ活動では意見を一つにまとめるのではなく様々な視点や考えを共有させることである。

本時は、余命2カ月の宣告を受けた父の唯一の外出許可の日の行動について扱った。父やその家族である筆者の心情に迫るために事前アンケートを実施し、授業を展開した。今後も、生徒の実情を踏まえて、授業を展開していきたい。

## 1 本授業におけるポイント

- 視点を変えて考える発問を設定することで、多面的に考えられるようにする。
- 班活動を通して、自由に意見を出し合える雰囲気をつくり、生徒の素直な気持ちを引き出すようにする。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 「命の大切さ」（日本文教出版）

### 2 ねらい

軽はずみな言動について、多面的に考えることを通し、自分自身の言動を改善しようとする態度を育てる。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 被害者、加害者の心情を想像する。

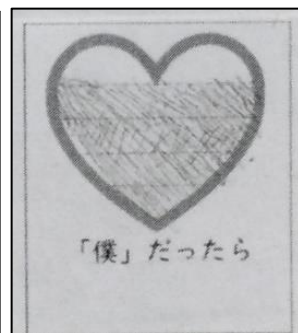
教師： 病気の治療で髪の毛が抜けたことを気にしている友達に対して、帽子をわざと取った行為は相手にどれだけのストレスを与えただろうか。ストレス度を色で塗り、どんな感情がわき上がるかを近くの人と話をしましょう。また、からかった人やその行為を笑っている人の感情も考えてみましょう。

生徒A： ストレス度は80% 今後は人前に出られないと感じる。

生徒B： ストレス度は100% 相手に仕返しをしてやりたい。

生徒C： 複数人でからかえば、相手も反撃しないだろう。

生徒D： 思った以上に髪が抜けておらず、つまらない。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

主人公の「僕」として考えることで、自分とは違った心情を感じとらせる。また、軽はずみな言動をした生徒の心情を考えることで、両者の考え方の差や受け取り方の差を実感させたい。

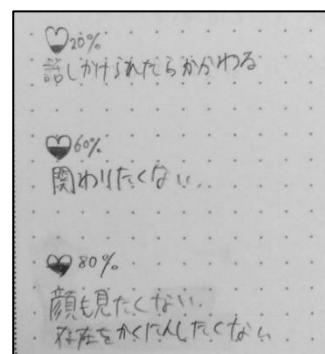
#### (2) 展開 ストレス度による今後の学校生活を想像する。また、自分の立場で考える。

教師： 今回の行為が「僕」に与えたストレス度が20%、60%、80%それぞれの時、今後の学校生活にどのような支障が考えられるか、班で話し合ってみましょう。

生徒A： 20%なら次の日も学校に登校でき、同じ事をされても流せると思う。

生徒B： 60%ならその人と距離を取るだろう。同じ事をされたら登校したくなくなると思う。

生徒C： 80%なら学校を休むだろう。同じ事をされたら立ち直れなくなると思う。

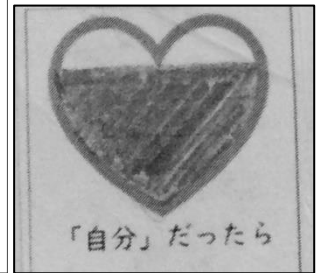


教師：自分が同じ行為をされたら、ストレス度はどのように変化するでしょうか、色を塗ってみましょう。また、日常の中で繰り返しからかったことや、からかわれた人など心当たりがある人はいませんか。

生徒A：0% まったく気にならない。

生徒B：80% 仲のよい友達でも嫌に感じてしまう。

生徒C：自分も繰り返しからかわれた経験があります。



○ 指導上の留意点・支援等

軽はずみな言動は受け取り手によってストレス度が変化することを押さえ、日頃の生活の中で、気づかずに誰かを傷つけている可能性があるかもしれないという、自己を振り返るきっかけを与える。

(3) 終末 自分自身を振り返る。

教師：日頃の生活の中における自分の行動を振り返ってみましょう。また、今回の授業を受けての感想を書きましょう。

生徒A：直接は関わっていないが、一緒になって笑っていた経験がある。これも相手にストレスを与えてしまうと改めて感じた。

生徒B：自分と周りの人のストレス度は違うため、些細な事でも行動には気を付けないといけないと感じた。

生徒C：自分はよく周りの人からかわれる。からかわれた人の立場を考えて行動してほしいと思った。

○ 指導上の留意点・支援等

振り返りは発表しないことを事前に伝えることで、より自分自身と向き合えるようにする。

3 評価について

○ ノートの記述

それぞれの立場になって考えることができたか。

自分では気にならないような行為でも、自分自身の行動を抑制する心情を育むことができたかを見取る。

相手が心の底ではどう思っているかわからないから、むやみな行動はしなくていいかと思った。むやみな人の感情を分るようになった。いと思った。

4 実践を振り返って

本時では、個人での思考、班活動による交流を仕組み、多くの視点で考えることができるよう、対話的な学びを行った。たくさんの生徒が自分自身の行動を振り返り、行動を改善していきたいという思いをノートに記載していた。しかし、振り返りが浅い生徒もおり、より生徒が身近に感じる出来事の例を挙げることが大切ではないかと考えた。他者との関わり方をより意識できる生徒が増えるよう、自分事として考えやすい工夫を今後も行っていきたい。

## 1 本授業におけるポイント

- 役割演技を取り入れ、主人公の気持ちに共感しながら自分の気持ちを伝えることで、物事を多面的・多角的に考える場を仕組む。
- 登場人物を自分のことに置き換えさせることで、自分のこれまでの生活を振り返り、次につなげさせる。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 「近くにいた友」（日本文教出版）

### 2 ねらい

オサムとシンヤの行動を自分のこととして考える活動を通して、互いに信頼し高め合う友情の大切さを理解し、いっそう友達を大切にしようとする態度を育てる。

### 3 学習指導過程

#### （1）導入 今までの友達と関わりについて振り返る。

<p>教師： 今までに友達と話をする中で気を付けていることはありますか。また、SNSで話をするときに気を付けていることはありますか。</p> <p>生徒A： 伝え方に気を付ける。</p> <p>生徒B： 今までに意識したことはない。</p> <p>生徒C： 何度も文を読んでから送る。</p>
--

#### ○ 指導上の留意点・支援等

今までの経験を思い出させながら日頃からの友達との会話を意識させることで、今後の自分の行動を見直すきっかけにつなげさせる。

#### （2）展開前半

#### 「近くにいた友」を読み、役割演技を通して主人公の心情を考える。

<p>教師： 「お前だろ、写真をとったのは・・・」の後、2人はお互いに何と言うのか考えましょう。</p> <p>生徒A： 違う、僕じゃないよ。</p> <p>生徒B： なんでもそをつくんだ。</p> <p>生徒C： どうして信じてくれないの？</p>
---

#### ○ 指導上の留意点・支援等

役割演技を通してオサムとシンヤの発言を考えることで、日頃の会話や行動が信頼関係につながることに気付かせたり、自分の身近に起こりうることに気付かせたりする。



## 1 本授業におけるポイント

- 道徳的価値について、生徒が多面的・多角的に考えることができるように発問構成を工夫するとともに、自分事として考えることができる切実性のある発問を生徒に投げかける。
- 自由に意見を出し合える雰囲気づくりのために、導入では、コの字型の座席配置とし、展開に応じた座席配置に動いていくようにする。また、授業の中で、ペア活動やグループ活動を取り入れ、自分の考えをクラスメイトと伝え合う時間を多く確保する。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 正義を求めて「渡良瀬川の鉱毒」（東京書籍）

### 2 ねらい

自分の職業を辞してまで、社会のために活動する人物の背景にある心についてグループで考える活動を通して、見て見ぬふりをすることなく、不正を憎み、不正な言動を断固として否定する正義と公正さを重んじようとする道徳的態度を養う。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 映像を見て、田中正造さんの生き方について確認する。

教師： 田中正造さんはどんなことをした人でしょうか。

生徒A： 足尾銅山鉱毒事件の解決に取り組んだ人。

生徒B： 天皇にお願いをした人。

生徒C： 村の住民のために力を尽くした人。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

短い映像を電子黒板で視聴させ、田中正造さんに関する前提となる知識を得させる。この発問に対する反応の中から「田中正造さんの生き方から学ぶことについて考えよう」というめあてを提示し、展開につなげていく。

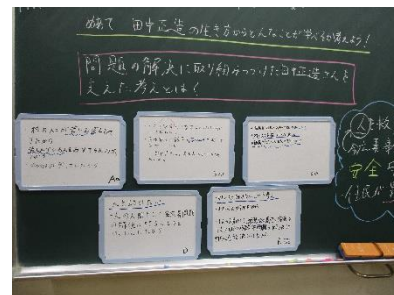
#### (2) 展開 教材を読み、田中正造さんが、なぜ足尾銅山の解決に取り組み続けることができたか考える。

教師： 議員を辞めてまで足尾銅山鉱毒事件の解決に取り組み続けた田中正造さんを支えたのは、どんな考えだったのでしょうか？

生徒A： 苦しんでいる農民の姿を見捨てられない。

生徒B： 村の安全を守りたい。

生徒C： 村の人が鉱毒で死ぬのはかわいそう。





○ 指導上の留意点・支援等

田中正造さんが鉱毒問題の解決に取り組み続けた心や考えについて、個人で考えさせた後に、小グループで意見を伝え合わせる。次に、田中正造さんと、お金を受け取り鉱毒問題の批判をしなくなった人との違いを比較して考えさせる。最後に「あなたがこの時代に生きていたら田中正造さんと同じように主張できていたでしょうか。」と補助発問を投げかけ、自分事として考えさせる。

(3) 終末 授業の振り返りを行い、ペアで共有する。

教師：これから、納得いかない理由で多くの人が困っている状況を見つけたら、あなたは  
どうしたいですか。

生徒A：どんなに目上の人でも間違っていることには変わりがないので、向き合って否定し  
たり考えなおしてもらったりする。

生徒B：困っている人がいたら、他人ごとと思わず、解決するまで助けたいと思った。

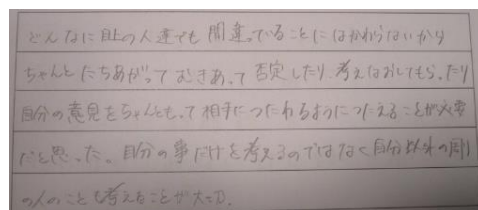
生徒C：間違っていることを正しくしてもらい、認められなくてもお互いが納得できるまで  
話し合いたい。

○ 指導上の留意点・支援等

これまでの授業内容を振り返り、これから正しくないことで困っている人たちが  
いたらどうしていききたいか、自分の考えを具体的に書かせる。書くのが困難な  
生徒には、黒板に記されたキーワードを参考にして書くよう助言する。

### 3 評価について

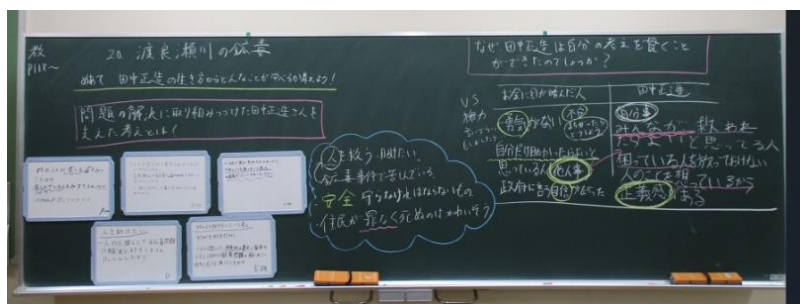
- 授業中の机間指導、発言内容、ワークシートに書かれた内容から評価を行う。評価については、以下の視点で行う。
  - ・考えを比較しながら、また友達の考えを踏まえながら多面的・多角的に考えようとしている。
  - ・自分の日ごろの生活を振り返るとともに、これからの生活に生かそうと考えようとしている。



### 4 実践を振り返って

座席配置をコの字から始め、授業の展開に応じて、小グループやペアでの話し合いを取り入れることで、自由に意見を伝え合う雰囲気が醸成され、活発な話し合いを行うことができたことは成果であると言える。

道徳的価値に関しては、中心発問や授業の振り返りで、生徒に考えさせたかった「社会正義」に関する記述も少しは見られたが、「生命の尊さ」や「希望と勇気、克己と強い意志」といった関連する他の内容項目寄りの記述も少なからずあった。不正を憎み、社会における正義の実現に自分がどう関わっていくかについて考えさせることについては課題が残った。このことについては、発問構成や展開を再考し、改善を図っていききたい。



～よりよい学校生活、集団生活の充実～

平生町立平生小学校

**1 本授業におけるポイント**

- 体験的な学習～動作化等の疑似体験的な表現活動
- 発問の工夫～児童の思考に沿った発問、自由な思考を促す発問

**2 授業の実際**

- 1 主題・教材名 大すきな学校「わたしの学校 いい学校」（廣濟堂あかつき）
- 2 ねらい トットちゃんたちが楽しく歌った時の気持ちを考えることを通して、その思いを共感的に理解し、学校を愛し、よりよい学校にしようとする道徳的心情を育む。

**3 学習指導過程**

- (1) 導入 学校のすきなところについて考える。

教師：学校の好きなところを言いましょう。

A児：運動場 B児：教室 C児：勉強 D児：遊び時間 E児：先生 F児：友達

- 指導上の留意点・支援等

初めは施設など表面的な事柄を挙げるが、それを出発点にして、深く思考できるように展開する。

教師：他の学校の男の子が「ぼろ学校」と言った時、トットちゃんたちはどう思ったのでしょうか。

A児：どうしてそんなことを言うの。

B児：見た目で判断しないでほしい。

C児：くやしい。

D児：許せない。

- 指導上の留意点・支援等

役割演技をして、トットちゃんたちのくやしい気持ちに気付かせる。

教師：トットちゃんたちはなぜ自分たちの学校が好きなのでしょうか。

A児：優しい友達や先生が大好きだから。

B児：学校は古くても中にいる人が素敵な学校だから。

C児：学校に誇りをもっていて、それを守りたいと思っているから。

D児：これからも守っていきたいと思えるようないい学校だから。

- 指導上の留意点・支援等

展開時の理由と導入時における施設等の表面的な理由とを比べさせることで、学校のよさは、つくりではなく中みであることに気付かせ、平生小の中み

はどんなところがいいのか考えさせた。

### (3) 終末

教師： 素敵な学校はだれがつくるのでしょうか。

A児： 校長先生。

B児： 校長先生だけではなく、子どもと先生、みんなでつくる。

C児： 保護者の人もいい学校をつくっている。学校に来てくれるし、ぼくたちの勉強を見てくれる。

教師： 平生小には地域の方もたくさんみんなのことを手伝いに来てくださっていますね。みんなでいい学校をつくっているのですね。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

素敵な学校は、学校の中にいる人はもちろん、それを取り巻く周りの人みんなで作ることにも気付かせた。

## 3 評価について

○ 学校を愛し、よりよいものにしようという気持ちをもてたか、プリントの記述から見取る。

## 4 実践を振り返って

学校を好きという気持ちで学校生活を送ると、何が変わってくるのか。友だちや先生と助け合えることや自分は自分のままでここにいていいという安心感があれば、もっともっと頑張れる、明るい気持ちでいられる、どんどん成長できる。ちょうど「窓際のトットちゃん」が映画化され、続編の本も発行されるなど、タイミングよくこの学習ができたことで、子どもたちはトットちゃんに興味をもった。図書室で「窓際のトットちゃん」「トットちゃんの15つぶのだいず」の本を見付け、みんなで読んだ。トモエ学園の子どもたちや先生の優しさを知り、そんな学校にしたいねと憧れている。「もしも、学校がいやだなと思ったら、自分たちで直す。中みは自分たちの態度で直す。」という振り返り作文が心強く感じられた。

導入では学校の好きなどところについて表面的な考えを述べる児童が多かった。「導入で仕掛け、展開では発問の工夫により、その導入を突っ込み、終末で回収する」という筑波大学附属小学校の加藤宣行氏の授業スタイルを参考にしてみた。子どもたちも私も、優しさや勇気あふれるトモエ学園の子どもたちや先生に会えてよかった、と思える教材との出会いになった。



～親切、思いやり～

下松市立中村小学校

1 本授業におけるポイント

- 親切のよさと誰に対しても親切にできているのかと問うことで、道徳的価値と現実の自分の姿とのズレを感じ、学習課題に向かうことができるようにする。
- ぼくの行為は親切かどうか立場を明確にして話し合うことで、多面的・多角的に話し合うことができるようにする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 心に通じた「どうぞ」のひとつ（東京書籍）

2 ねらい

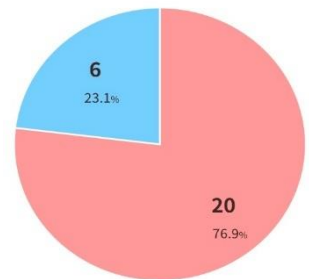
主人公の行為は親切なのか話し合うことを通して、相手の立場に立って思いやりの心を持ち、誰に対しても親切にしようとする心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 親切とは何かを考える。

教師： 親切って何だろう？親切のよさは？  
 A児： 親切は優しさだと思う。  
 B児： 親切は人を助けることだと思う。  
 C児： 親切にすることで、した方もされた方も嬉しい気持ちになる。  
 教師： 親切にすることができてる？  
 A児： できていることが多い。  
 B児： 仲のよい人や親しい人には親切にできているけど、あまり話さない人や初対面の人には親切にすることができていない。  
 C児： 重そうな荷物を持っているおばあさんに声をかけたいけれども、勇気がなくて声をかけられなかったことがある。

ピンク：誰に対しても親切にはできていない  
 水色：誰に対しても親切にできている

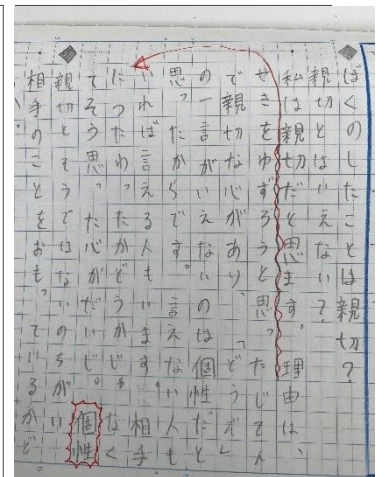


○ 指導上の留意点・支援等

親切とはどういうものなのかを問うことで、様々な場面を想起し、児童の今までの経験から感じている親切について共有することができるようにする。

(2) 展開 資料を読み、ぼく的心情や行為について話し合う。

教師： ぼくの行為は親切なのだろうか？  
 A児： 何もおじいちゃんに言ってないので、親切ではない。  
 B児： 後から声をかけてくれたおじいちゃんの方が親切。  
 C児： 席をゆずろうと思った時点で親切。「どうぞ」が言えないのは個性。  
 D児： 心や体に親切な思いが伝わっていた。親切は行動に表すだけでなく、心にも表れる。  
 E児： 「どうぞ」は言えなかったけれど、ぼくなりの優しさが表れていたから親切。  
 教師： 親切と親切ではないの違いはなんだろうか？  
 A児： 親切は、相手のことを思っていること。  
 B児： 相手のことを思う気持ちが親切で、行動できなくても親切。  
 C児： 親切は見返りを求めている優しさで、親切は見返りを求めているがまん。

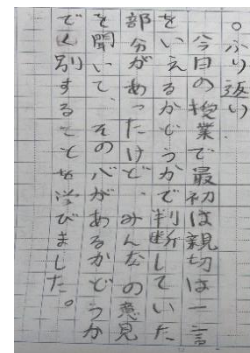


### ○ 指導上の留意点・支援等

ぼくの行為は親切なのかを問うことで、自分の立場を明確にし、親切な行為について考えることができるようにする。親切と親切ではないの違いについて考えることで、行為だけでなく心情にも目を向けて親切について考えることができるようにする。

### (3) 終末 学習を通して振り返りを書く。

教師：これからどんな親切をしたいか。  
A児：自分が相手のことを思って何かをすることが親切だと思う。それが相手に伝わらなくても、その心だけでも大切にしていきたい。  
B児：最初は一言を言えるかどうかで親切かどうか判断していたけれど、みんなの意見を聞いて、その心があるかどうか大切に学んだ。  
C児：親切は自分ができる自分なりの優しさでいいと思った。

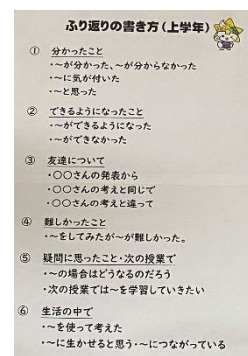


### ○ 指導上の留意点・支援等

意図的に指名し、児童の振り返りの中から、相手の立場や気持ちを考えた親切のよさや大切さを感じ取れるようにする。

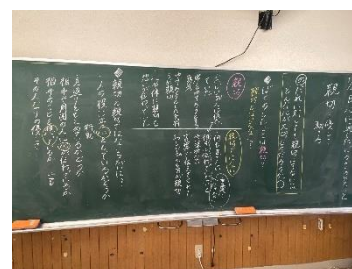
## 3 評価について

- 児童が一面的な見方から多面的な見方へと発展させているかどうかにおいて、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているかを、発言やノートから見取る。
- 振り返りの書き方を提示することで、現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直しているか、今後どうしていきたいかをノートから見取る。
- 道徳ノートに蓄積していく。



## 4 実践を振り返って

親切のよさと実際に誰に対しても親切にすることができているかを問うことで、親切はよいことだけど実際の自分は親切にすることができていないというズレを実感し、学習課題へとつなげることができた。また、ぼくの行為は親切なのか立場を明確にして話し合わせることで、一人ひとりが意見をもつことができ、多様な考えに触れることができた。しかし、中心発問から道徳的価値に迫ることが難しく、本実践のように親切と親切ではないの違いを問うことよりも、誰に対しても親切にするために大切な心は何かを問うたり、行為だけが親切なのかを問うたりした方が、道徳的価値に迫ることができたのではないかと思う。また、ICTを効果的に使い児童の思考の変容を視覚的に表すことができるようにすると、児童自身が授業前と授業後での自分の変容に気付くことができたのではないかと考える。



## 1 本授業におけるポイント

- 誠実な人はどのような人かについて、導入と終末の2回考えることで、より具体的に誠実な行動を捉え、実践意欲を高められるようにする。
- 手品師が決断するまでの葛藤について、対比的に板書し、話し合うことを通して、多面的・多角的に考えることができるようにする。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 明るく生きる 「手品師」 (東京書籍)

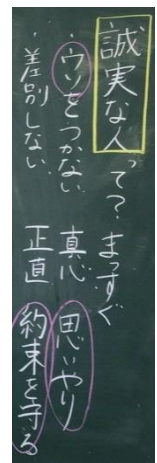
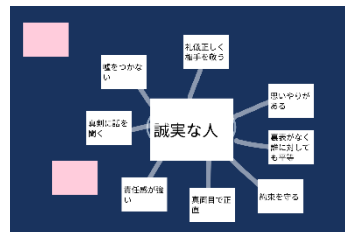
### 2 ねらい

手品師の決断について話し合うことを通して、誠実に行動することの根拠を考え、明るく生活しようとする心情を育てる。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 誠実な人について意見を出し合う

教師： 誠実な人ってどんな人ですか？  
 A児： うそをつかない人。  
 B児： まごころがある人。  
 C児： 正直な人。  
 D児： 約束を守る人。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

ロイロノートを活用し、誠実という言葉の意味や「誠実な人」とはどのような人かという、学習前の捉えを共有し、価値への方向付けができるようにした。学習前と後での考えの深まりを感じ取れるように、授業前は白、授業後はピンクのテキストに記入するようにした。

#### (2) 展開 「手品師の決断」について考える

教師： 男の子と約束を果たす決断にした手品師をどう思う？

D児： 理解できる。先に約束をしたのは男の子だから。

E児： 理解できない。自分にとって大劇場は、最後のチャンスかもしれないから。

F児： 理解できない。約束はまたにしたらいい。

G児： 理解できる。男の子は一人だけど大切なお客さんだから。

H児： 理解できる。男の子は手品師のことを信じているから。

(中略)

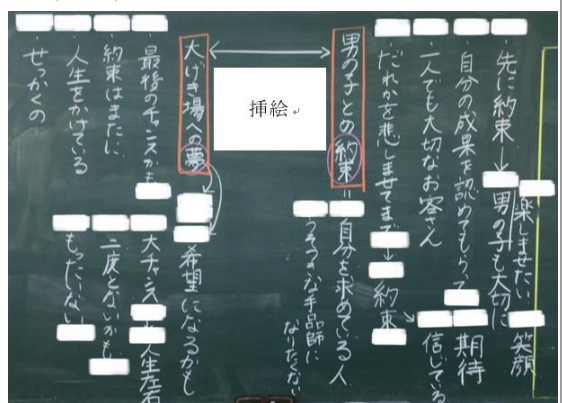
教師： 迷いに迷った手品師についてどう思う？

I児： 自分だったらすぐに夢を選ぶ。

教師： どちらか一方を選ばないといけないのに、どうして約束を選んだのかな？

I児： 一人であっても悲しませるのはだめだと思ったから。

J児： 男の子は自分を求めているから、行ってあげないといけないと思ったから。



○ 指導上の留意点・支援等

手品師の迷っていたことについて尋ね、対比的に板書することで、教材の内容について整理できるようにした。その後、「〇〇さんの夢って何?」、「どうして手品師は悩んだのかな?」と問いかけた。児童の夢を確認することで手品師の葛藤場面を自分に置き換えて考えられるようにした。夢と約束という文字を取り上げ、中心発問として「男の子との約束を果たす決断をした手品師をどう思う?」と尋ねた。「理解できる」と「理解できない」のどちらかの立場に立ち、その理由をノートに書いた。

話し合いが進む中で児童から「理解できる」と「理解できない」のどちらかの立場の意見もたくさん挙がったので、「どちらの意見も分かる。迷いに迷った手品師についてどう思う?」、「どうして男の子との約束を選んだの?」と尋ね、手品師の決断までの葛藤が味わえるようにし、その決断の難しさや誠実さを捉えられるようにした。

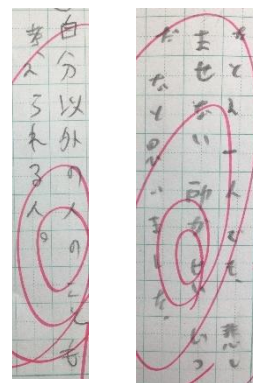
(3) 終末 「誠実な行動」について考える

教師： 手品師は誠実なところがいっぱいあったけど、どんなところかな? (ロイロノートのテキストを見て、嘘をつかない・思いやり・約束を守っているなどの意見が出る)

教師： 誠実な行動ができる人ってどんな人?

J児： 悩んで決める。てきとうに決めない人が誠実な人。

K児： 自分以外の人のことも考えられる人。



○ 指導上の留意点・支援等

終末では、手品師の行動の誠実な点を話し合ってから、「誠実な行動ができる人はどんな人かな?」と尋ねることで、具体的な誠実な行動が児童から出るようにした。また、「最初に考えていた誠実な人のイメージから、手品師の行動を通してどう変わったかな?」と問いかけたことで、授業前との自己の変容が見られるようにした。

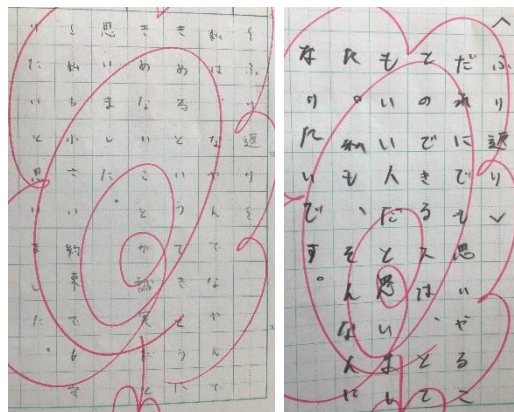
3 評価について

(評価の対象)

発言やノートの記述

(評価の視点)

- ・手品師の選択した決断の内容や行動について考え、誠実な行動について話し合ったり、書いたりすることができたか。
- ・これからどのようなことを大切に生活していこうとしているか。



4 実践を振り返って

手品師の決断について考えることを通して、児童の多様な価値観が表出し、それにより決断の難しさを感じることができた。また、手品師の誠実さを通して、「誠実な行動」について具体的に捉えることができ、誠実に行動したいという意識が高まった。授業前と授業後の変容もロイロノートの中で見ることもできた。

## 1 本授業におけるポイント

- 中心発問について自分の考えを書く時間を十分にとるようにする。書き方を限定せず、文でも図でも絵でもよいこととする。
- 友達と議論するよさを味わわせるために、自分を振り返る場面では、数分でいろいろな友達と自由に意見交流をさせ、誰かに自分の考えを話したら黒板にネームプレートを貼るようにする。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 よく考えて行動する

「いっしょになってわらっちゃだめだ」（東京書籍）

### 2 ねらい

よく考えて、自分にできることをしようとする態度を育てる。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 周りの人の行動に流されてしまった経験について考える。

教師： クラスのみんなは、どんな経験があるのだろうか。  
 A児： チャイムが鳴っても友達が遊んでいたの、一緒に遊んでしまった。  
 B児： 悪口を言っていたのを聞いて、一緒に言ってしまった。  
 C児： 友達が失敗したときに、周りの人と一緒につい笑ってしまった。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

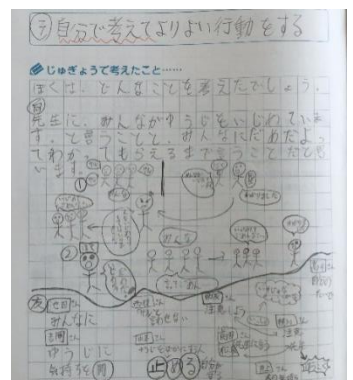
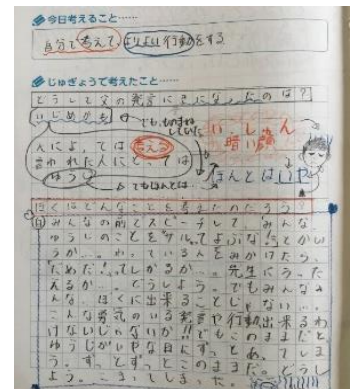
事前にアンケートを行うことで、本時のテーマに関わる児童の様子を把握する。また、その結果は、担任が伝えて、特定の児童が対象として見られることがないように配慮する。

#### (2) 展開 「ぼく」がどんなことを考えたかについて話し合う。

教師： いろいろ考えたとあるが、「ぼく」はどんなことを考えたのだろうか。  
 A児： 注意した方がいいかな。でも、こわいからできない。  
 B児： 注意したら、みんなは「ぼく」になんて言うかな。  
 C児： どうしたらやめさせられるかな。  
 D児： ゆうじの気持ちを聞いてみようか。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

主人公が考えたことを具体的に考えることができるようにするため、登場人物の関係や問題場面の様子を確認し、自分事として考えることができるようにする。また、一人で考える時間をしっかりとることで、主人





公が長い時間いろいろ考えたことを実感できるようにさせる。

### (3) 終末 自分だったらどうするかを考える。

- 教師： もし自分が「ぼく」だったら、どんな行動をするだろう。
- A児： みのるにやめるように言う。自分だったら、言えると思う。
- B児： 周りの友達にやめるように言う。みのるが言い始めたが、一緒に笑ったり言ったりするのがいけないから。
- C児： 自分は何もできないと思う。勇気がないから。
- D児： 「ぼく」みたいに、一生懸命考えてできることをしたい。

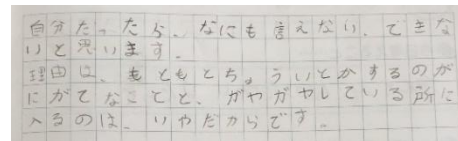
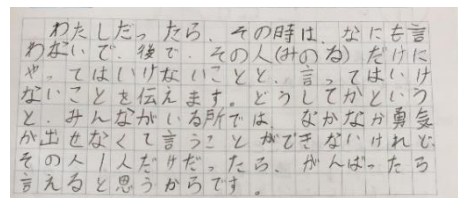


#### ○ 指導上の留意点・支援等

自分が主人公の立場に立ったらどうするかを考えさせることで、本時のテーマについてより深く考えることができるようにさせる。また、ペアで数人の友達と意見の交流をさせることで、自分の考えを伝える機会を多く作ったり、相手の考えを聞きやすくしたりさせる。

### 3 評価について

- 道徳ノートの記事、授業中の発言、友達との交流の様子を評価の材料とする。
- 道徳ノートの考えた足跡を見て、自分事として捉えることができているか見取る。
- 友達の意見と自分の考えを比較している発言や様子を見取ったり、友達の考えのよさをノートに書いている児童を取り上げたりして、多面的・多角的に考えているかどうか見取る。



### 4 実践を振り返って

道徳の時間には、テーマについて自分事として一生懸命考え、友達と議論することで、自分の考えを深めたり広げたりして、自分の生き方をよりよくすることにつながってほしいという願いがある。

授業の流れをシンプルにして、主発問について考える時間を十分にとったことにより、児童が自分と対話しながら、主人公が考えたことを想像する様子が見られた。そのため、行動した方がよいこと、でもできない主人公の心情、自分だったらどうするのだろうか、どうすることがよいことなのかなど、児童は多面的に考えることができた。実際の生活では、このようにいろいろな立場や状況から、自分の行動を判断することが必要となる。また、今回はペアで自由に意見を交流することで、日頃あまり発表しない児童が、自分の考えを相手に伝えやすくなり、友達と話し合うことに喜びや発見をもつことができたようだ。友達と直接話し合い、相手の考えを知り、自分と同じところや違うところに気づき、そのことについてまた考えるという姿をめざしたい。

児童からいろいろな考えを引き出し、価値の高まりに向かってじっくりと話し合えるような中心発問、価値の高まりを感じながら自分を見つめ直す終末の発問など、道徳の時間の発問については、これからもしっかりと吟味していきたい。

## 1 本授業におけるポイント

- 周りから見える自分のよさを知ること、客観的に自分を見つめ直す機会を設ける。
- グループ活動の中で、自分や仲間の考えを伝え合うことを通して、思考の広がりや深まりをめざす。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 自分らしさって? 「がんばれ おまえ」(光村図書)

### 2 ねらい

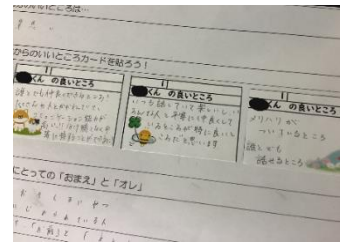
自身が考える自分らしさと仲間が発見した自分のよさの比較を通して、自身のよさに気づき、自己を肯定し、充実した生き方を選ぼうとする意欲を育む。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 「自分のよさ」について考える。

教師： 自分にはどんな「よさ」があるだろう。  
 生徒A： ポジティブなところ、元気があるところ！  
 生徒B： よさ？う～ん…。

教師： 友達が発見したあなたのよさを見てみよう！  
 生徒C： 嬉しい！私のことをこんなに詳しく書いてくれている！  
 生徒D： 自分にもこんなにたくさんの長所があるんだ。

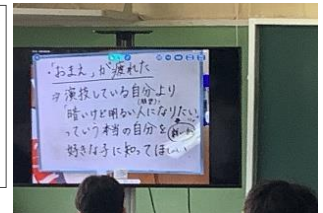


#### ○ 指導上の留意点・支援等

導入では、「自身が考える自分らしさ」と「仲間が発見した自分のよさ」の比較を行った。まず、自分の長所を挙げさせ、その後、クラス内の仲間が見つけた長所カードを配付する。自分との認識の違いを実感させ、自身のよさについて改めて見つめ直す契機にした。

#### (2) 展開 「自分らしさ」について考える。

教師： (主人公の) 別人格の「おまえ」と本当の自分である「オレ」が入り交じったのはなぜだろう。  
 生徒E： うそいつわりのない本当の自分を見つけないから。  
 生徒F： 自分の気持ちがわからなくなってきたから。  
 生徒G： 本当の自分に向き合うことに不安や迷いが生まれたから。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

主人公の少年は、以前いじめを受けた体験から、自己に対する劣等感が強く、本当の自分と向き合うことから逃れ、別人格の自分を演じることでやり過ごしている。そんな主人公にとっての「自分らしさ」を確認した後、生徒一人ひとりにとっての「自分らしさ」とはどういうことかを問うことで、「少年」と自分の姿を重ね合わせて考えられるようにした。

### (3) 終末 今の自分自身に宛てたメッセージを書く。

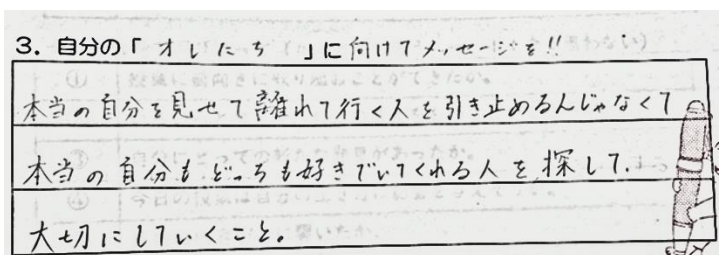
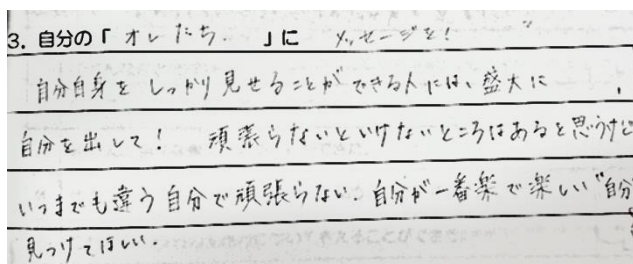
教師： 今、自身の中にある様々な自分に宛てて、メッセージを書こう。  
生徒H： いつも人に合わせようとしなくていい。時には自分を出して、思いをためこまないようにしよう。  
生徒I： 不安や迷いがあるかもしれないけど、自分の気持ちが分からなくなるまで、お芝居をするのは疲れるから、今からでも本当の自分を色んな人に知ってもらえたら嬉しい。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

自分自身の中にある様々な自分の姿が発見できるように促し、活動を進めた。導入の長所カードを示すことで、自分自身を多面的・多角的に見つめ直すヒントにさせ、今の自分に宛ててメッセージを書かせた。どのような「本当の自分」がいるのかを問い、学校や家など、異なる環境においても、自分自身を肯定的に捉えられるような声かけを行った。

## 3 評価について

○ ワークシートの記述（自分に向けたメッセージ）の中で、自分の姿を肯定し、充実した生き方を選ぼうとする姿勢が見えるか。



## 4 実践を振り返って

導入で、「自分のよさ」について自ら発言できた生徒は数名だけであった。思春期であることに加え、本校の課題である自己肯定感の低さから、人前で自分の長所を口にすることに抵抗がある生徒も少なくない。しかし、仲間が発見してくれた長所カードから、自分のよさに気づき、照れながらも嬉しそうにしている姿も見てとれた。自分のよさに目を向け、そのよさを伸ばしていこうとする気持ちの芽生えを実感した。

展開では、グループ活動を通して、互いの考えを積極的に共有する姿が見られた。今後も、他者の考えに学ぼうとする姿勢を大切に、対話を通して課題を深める場面を日常的に取り入れていきたい。しかし、主人公の心情や状況について問うたことで、教材の理解にとどまってしまう場面もあった。課題を自分ごととして捉えられる発問の工夫の必要性を大きく感じたところである。

また、振り返りとして、自分へのメッセージを書かせたことで、自分自身を見つめ直すことよりも、応援メッセージのように書いてしまった生徒も多かった。生徒自身が主人公と自分を重ねたり、自分ならこうすると考えたりしながら、教材と向き合う手立てを講じられるように、授業者がねらいをぶれずにもっておくことが大切であると感じた。

～勤労、公共の精神～

山陽小野田市立出合小学校

1 本授業におけるポイント

- 事前に「当番の仕事についてのアンケート」を実施し、授業前に子どもたちの現状や課題をつかみ、自分の生活と関連付けて考えることができるようにする。
- 1人1台端末を活用して意見交換することで、「勤労・公共の精神」について多面的・多角的に捉えるとともに、他者理解ができるようにする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 仕事へのねつい「木の中にバットが見える」（日本文教出版）

2 ねらい

自分の働きが周囲に与える影響や、それに伴う思いを考えることを通して、みんなのために働こうとする意欲を高める。

3 学習指導過程

(1) 導入 アンケート結果から、当番の仕事をする理由・気を付けていることを考えて発表する。

教師： 当番の仕事は何のためにするのでしょうか。  
 A児： 仕事をすると自分のできることがふえるから、自分のため。  
 B児： 先生が大変そうだから、先生のため。  
 C児： クラスのみんなが過ごしやすいようにするため。  
 教師： どんなことに気を付けて当番の仕事をしていますか。  
 E児： 健康観察表を持って行くときに走らない。  
 F児： 黒板をできるだけきれいにする。  
 G児： みんなが見やすいようにする。



○ 指導上の留意点・支援等

事前にアンケート「当番の仕事は何のためにするのか」について提示し、当番の仕事に対して、元々もっていた道徳的価値観を想起させる。



(2) 展開 久保田さんの行いを支えたものについて考え、話し合う。

教師： 久保田さんの行いを支えたものは何だろう。  
 A児： もっといいものを作ることができるという気持ち。  
 B児： みんなの役に立ちたいという気持ち。  
 C児： 選手のためにいいものを作りたいという気持ち。  
 教師： もっといいものを作ることができるという意見がでたが、それはだれのためだろう。  
 D児： 自分のため。自分ももっといいものを作れるから、頑張りたいという気持ち。  
 E児： もっといいものが作れると選手のためにもなると思う。  
 F児： 自分のためにも、みんなのためにもなる。  
 教師： 久保田さんは、自分のためにもみんなのためにもバットを作り続けたんですね。久保田さんの仕事は、バットを作ること。では、みんなの仕事って何だろう。  
 D児： 勉強したり遊んだりすること。  
 E児： 当番や係の活動。

○ 指導上の留意点・支援等

久保田さんの行いを支えたものについて「自分のため」「人のため」「そのた」の3つに分けて板書する。また、ロイロノートの付箋の色を理由ごとに覚えておくことで視覚的に分かりやすくし、自分とは異なる意見についても考えさせたり、友達の見解のよさに気づかせたりする。自分事として考えられるように、久保田さんの仕事は、みんなの当番の仕事と同じことに気づかせるようにする。

(3) 終末 今までの自分を振り返り、「何のために当番の仕事をするのか」について考えたことを発表する。

教師： 当番の仕事は何のためにするのでしょうか。そして、どんな気持ちでするのが大切だと思いましたか。  
A児： 当番の仕事をするのがすっきりするから、自分のため。  
B児： 自分のためだけれど、みんなの役に立ちたいという気持ちですることが大切。  
C児： クラスのみんなのためにする。みんなが楽しく過ごせるように考えてすることが大切。

係や当番の仕事は何のためにするのでしょうか。  
ふせんをえらんでその理由を書きましょう。



○ 指導上の留意点・支援等

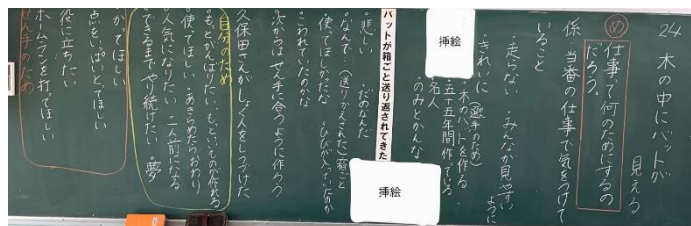
本時の学習をもとにして、今までの自分を振り返るとともに、これから当番の仕事をするときに大切なことは何かを確認しながら、これからの自分について考えさせる。

### 3 評価について

- 何のために仕事をするのか、考えている。(発言・道徳ノート)
- 当番の仕事をするときに大切なことや自分に必要なことが何かを考えている。(発言・道徳ノート、ロイロノート)
- みんなのために働こうという意欲・心情を育てることができたか。(発言・道徳ノート・ロイロノート)

### 4 実践を振り返って (成果や課題等を書く)

子どもたちは、今まで自分がしてきた当番の仕事は何のためにするのか見つけなおすよいきっかけとなる教材だった。事前のアンケートでクラスの実態を把握し、クラスに合った流れを考えることが、子どもたちの学びの深まりにつながったと感じた。また、ロイロノートを活用することで、多くの考えに触れることができたことがよかった。さらに友達と意見を交流する時間を設け、友達のよかった意見を後で発表する活動を行った。意見を書けていても普段なかなか意欲的に発表しない児童が発表するよい機会となった。課題として、交流する時間をもう少し長くとることができれば、「自分とは違う考え同士」での意見交換や議論ができ、他者理解が一層深まったと考える。



～自主、自律、自由と責任～

山陽小野田市立厚狭中学校

1 本授業におけるポイント

- 導入に疑似体験的な表現活動を行うことで、「他者に促されて」という他律的な動機で行動するのではなく、「自ら考え判断する」という自律的な動機に基づいた主体的行動の大切さを実感させる。
- 地域の方を招き、地域行事へ中学生が参加することに対する期待や、経験に基づいた主体的に生きることのよさについて伝えてもらう。

2 授業の実際

1 主題・教材名 自律的な生き方「町内会デビュー」（日本文教出版）

2 ねらい

自主的に考え、自らを律し、自分の決めたことを実行していこうとする判断力を養う。

3 学習指導過程

(1) 導入 疑似体験を通し、自律と他律の違いについて確認する。

教師： 「自律」ってどういうことか分かる？近くの人と話してみて。  
 生徒A： 自分で生活すること。  
 教師： それはこの「自立」なんですね。（「自立」と板書する）  
 ちょっと実際に体験してもらおうと思います。  
 Bさん、黒板の前を通ってくれますか？（床にゴミが撒いてある）  
 （何も言わずに通過させる） どうして拾わなかったの。  
 生徒B： 気にならないから。  
 生徒C： 汚いから拾いたくない。  
 教師： （ごみを拾うことを指示） どうして拾ったの。  
 生徒D： 拾ってと言われたから。  
 教師： これは人に言われて行動したので他律ですね。  
 今まで人の意見で自分の行動を決めてしまったことはありませんか。

○ 指導上の留意点・支援等

数人の生徒に疑似的にゴミをまいた床を通過させることで、主題について考えさせる準備をする。

(2) 展開 教材「町内会デビュー」を読み、明の気持ちの変化について考える。

教師： ①自分が地域の作業に出てと頼まれたらどんな気持ち。  
 生徒A： 朝早いのは嫌だ。  
 生徒B： 行きたくなくても行けといわれるので、とりあえず行く。  
 教師： もし地域の作業に中学生が来てくれたら地域の方はどう思われますか？  
 地域A： うれしくなっているいろいろと教えてしまいます。  
 教師： ②どうして明は自分から草を集めはじめたのだろう。  
 生徒C： お年寄りの仕事ではない。もっと力になりたい。  
 生徒D： ほめられたから嬉しくなった。期待に応えたい。  
 教師： ③作業後、明はどんな行動をとるようになったか。  
 生徒A： 自分から声をかけるようになった。  
 教師： 自分で考えて行動するようになりましたね。

地域の人は、中学生が来てくれたら地域の方はどう思われますか？

わたくし、お年寄りの仕事ではない。もっと力になりたい。  
 期待されているからやるからにはちゃんとするべき  
 ・自分だけ仕事をしていないと迷惑になる  
 ・他の人がしていたから自分も手伝ったほうが早く集められる

・周りを見て草を運んだほうが良いと思った（自分だけしてない場違いな気がする）  
 ・期待されているからやるからにはちゃんとするべき  
 ・自分だけ仕事をしていないと迷惑になる  
 ・他の人がしていたから自分も手伝ったほうが早く集められる

○ 指導上の留意点・支援等

共同作業へ参加する前の明から積極的に挨拶をするようになった明までの気持ちの変化（心の成長）を捉える。他律的だった明の行動が、作業をする中で他者に褒められ、作業にやりがいを見つけて自律的な動機に支えられるように変化したことを捉えさせる。

作業している明を褒めてくれる町内会の人がいるように、生徒が住む地域にも中学生や高校生が地域行事に参加することを好ましく思っている地域の人がいることを地域の方の言葉で伝わるようにする。

(3) 終末 今回の学習を振り返り、まとめる。

教師：	自分で考えて行動することのよさについて考えてもらいたと思います。
生徒A：	達成感を得ることができる。
生徒B：	誰かに言われてするよりも自分からする方が気持ちがいい。
地域A：	自分の中で成長を感じることができる。
地域B：	自分自身が納得できる。

人間関係が良くなった。(自分で考えて行動する=とよんで自分の息と他の人が見のり=と世にできるから)	自分でやるかと思っただことしているから、やる気が出る。気持ちがかわやかになる。
---	---

○ 指導上の留意点・支援等

明の心の成長に着目し、再度他律について触れることで、自主的、自律的な生き方のよさに気づくことができるようにする。

地域の方の自律にまつわる経験を聞く。

### 3 評価について

話し合いの中でお互いの意見を伝え合っているかを見取る。自分の意志で行動することの大切さを捉えた発言や記述があったかを見取り、道徳的価値を深めることができたかについて評価を行う。

### 4 実践を振り返って

グループで共有した個人の考えをタブレットにまとめて学級全体に発表することで、全員の考えを可視化して共有することができた。また、場面ごとの明の気持ちを板書に残すことで、明の行動に変化が生じた理由について考えやすくなること



ができた。今回は地域の方に授業へ参加していただいたことで、世代の異なる方の考え方や経験を聞き、考えを深めることができた。また、生徒が地域行事などに必要とされていることも認識できた。道徳への地域交流は2年目であるが、生徒たちも気軽に話し合いに参加することができており、今後も連携して生徒の成長を支えていきたい。

## 1 本授業におけるポイント

- 主人公や相手の行動を確認し、気持ちを考えることに加え、自分ならどうするか問うことで、自分事として捉えることができるようにする。
- ICT 端末を活用し、心情メーターで変化を表し、共有することで、話し合うためのツールとして活用するとともに、様々な思いを表現することができるようにする。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 「小さなできごと」（光文書院）

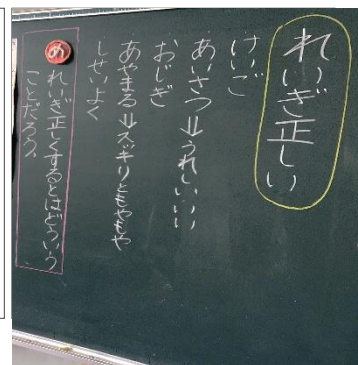
### 2 ねらい

お互いが明るい気持ちで生活するために、時間・場所・人間関係に合わせて、気持ちのよい挨拶や言葉遣いをするすることで、相手にもそれが伝わることに気が付き実践しようとする態度を育む。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 礼儀正しくすることについて考える。

教師： 礼儀正しいと例えばどんな場面を思い浮かべますか？  
 A児： ですますとか、敬語をつかう。  
 B児： 挨拶をします。  
 C児： 謝ったりありがとうを伝えたりするときにおじぎをする。  
 D児： 姿勢をよくして話すことも礼儀なんじゃないかな。  
 教師： あいさつしたり謝ったり礼儀正しくするとどんな気持ちになりますか？  
 E児： うれしい気持ちにする。  
 F児： 謝ったらすっきりする。

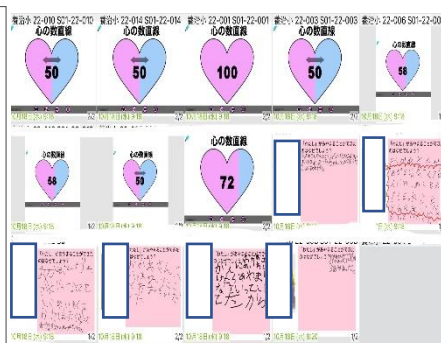


#### ○ 指導上の留意点・支援等

礼儀正しくすることについて自身の生活体験を振り返る。児童の身近な挨拶・謝るなどの体験を振り返ることで、礼儀へのイメージをもつことができるようにする。また、ICT 端末を利活用し、登場人物や話の流れを示しながら本時の学習の見通しをもてるようにする。

#### (2) 展開 足を踏んでしまった後の「わたし」の行動と気持ちを話し合う。

教師： どうして「わたし」はおばさんと目が合う前に下を向いてしまったのだろうか？  
 A児： おばさんがこわかった。  
 B児： 目を合わせると怒られるんじゃないかな。  
 C児： あやまろうかな、どうしよう。  
 D児： 謝れない。ほんとは謝りたいけど。  
 教師： 「わたし」がごめんさいと言えたのはなぜでしょう？  
 A児： お母さんに言われたことを思い出したから。  
 B児： おばさんも自分の心ももやもやしたままだから。  
 C児： 足を踏んでしまって、悪いのは自分だから。







～規則の尊重～

下関市立文関小学校

**1 本授業におけるポイント**

- 自分のこととして捉えさせるため、事前アンケートで「実際に自分もしくは友達がきまりを守らなくて困ったこと」や「きまりを守ってよかったこと」等を考えさせる。

**2 授業の実際**

1 主題・教材名 「セルフジャッジ」 (光文書院)

2 ねらい

きまりが何のために存在するのかを考えることを通して、その意義を理解し、進んでそれを守り、自分の義務を果たしていこうとする態度を育む。

**3 学習指導過程**

(1) 導入 きまりについての考えを確認し合う。

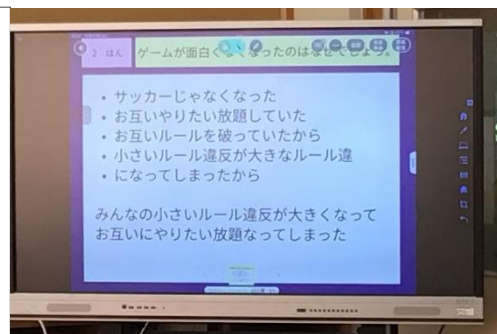
教師： きまりは何のためにあるのでしょうか。  
 A児： 仲よくするため。  
 B児： 安全に生活するため。  
 教師： セルフジャッジに賛成か反対か。  
 A児： 賛成。審判がいなくても自分たちでできるから。  
 B児： 反対。反則する人がいるかもしれないから。

- 指導上の留意点・支援等

休み時間や体育の授業での経験を想起させ、自分たちに身近な教材であることを実感させる。

(2) 展開 「セルフジャッジ」を読み、きまりを守る大切さについて考える。

教師： ゲームが面白くなくなったのはなぜでしょう。  
 (個人→班 ロイロノート)  
 A児： お互いにやりたい放題にしたから。  
 B児： ルールを守った人が不利な状況になってしまったから。  
 C児： 小さいルール違反が大きなルール違反になってしまったから。  
 教師： きまりは何のためにあると思いますか。  
 A児： 誰か一人でも嫌な思いをしたり不公平になったりしないため。  
 B児： みんなが気持ちよく過ごすため。



- 指導上の留意点・支援等

- ・教材を読む前に簡単にあらすじを紹介することで、教材の内容を理解しやすくする。
- ・「ルールを守らなかったのはどんな気持ちからなのか」と問うことで行動の裏にある弱さに気付けるようにする。

・二度目の「きまりは何のためにあるのか」という問いかけでは、好き勝手にすることが楽しい生活につながらないことから、きまりの存在意義への理解を深めさせたい。

### (3) 終末 本時の授業で感じたことをもとに、自己を見つめる。

教師： あなたはこれからどんな気持ちできまりを守っていきますか。  
A児： 小さなきまりでも、しっかり守っていきたいです。そして、周りの人がきまりを破っていたら、知らないふりをせず、注意していきたいと思う。  
B児： きまりをきちんと守って、みんなが気持ちよく過ごせるようにしようと思う。

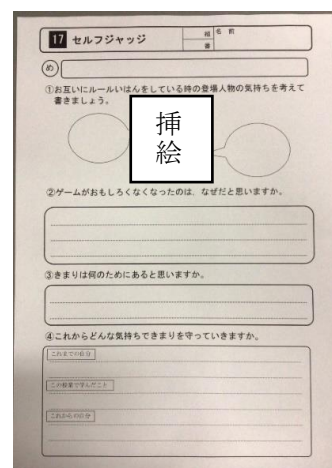
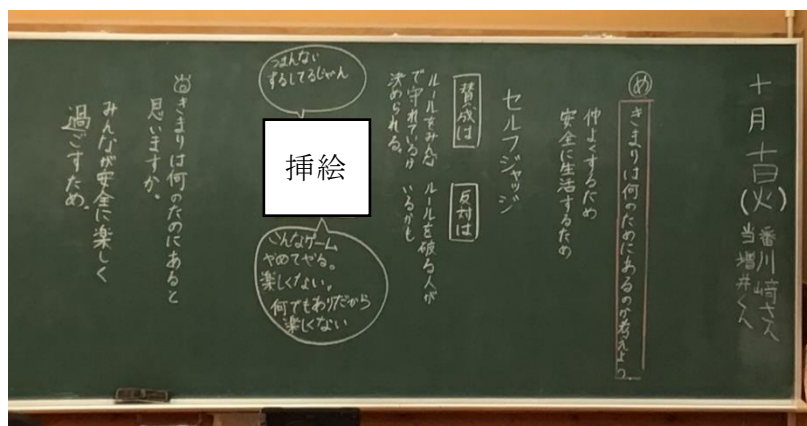
- 指導上の留意点・支援等  
振り返りの視点（これまでの自分、学んだこと、これからの自分）

## 3 評価について

- きまりを守る大切さやセルフジャッジについて考えることを通して、様々な視点から考えられるようになったか。（多面的・多角的な見方）

## 4 実践を振り返って

- 成果
  - ・教材を範読する前に簡単にあらすじを伝えることで、どの児童も教材の内容を理解できていた。
  - ・事前アンケートを用いることで、児童の意見を授業に取り入れることができ、時短にもなっていた。
  - ・「自分だったらどうしていたか。」「この人たちはどうすべきだったのか。」を問いかけ、教材を自分事として捉えさせることができていた。
- 課題
  - ・主発問について、もう少し様々な意見が出るような広がりのある問いの方がよかった。
  - ・「仲よくするため」「安全に生活するため」を超えられる道徳的価値を引き出す補助発問があればよかった。
  - ・「相手がずるしているのを注意しても聞いてくれなかったらどうするか。」を中心にして考えさせるとよかった。



## 1 本授業におけるポイント

- 地域の人と交流することで、自分たちにはない考えに触れ、多面的に物事を考えさせたい。
- 日本の昔のおもちゃを体験することで、日本の伝統や文化のよさに気づき、大切にしていこうとする気持ちを育てたい。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 伝統と文化の尊重「にっぽんのおかし」（日本文教出版）

### 2 ねらい

日本のお菓子がもつよさを知って日本という国に親しみを感じることで、我が国の文化を大切にしようとする心情を育てる。

### 3 学習指導過程

#### (1) 導入 風鈴の音を聞き、身の回りにある日本の文化に興味をもたせる。

教師： この音を聞くと、どんなことを感じますか。  
 A児： きれいな音がする。  
 B児： 涼しく感じる。  
 C児： おばあちゃんの家で見たことある。  
 D児： おばあちゃんのにおいがする。

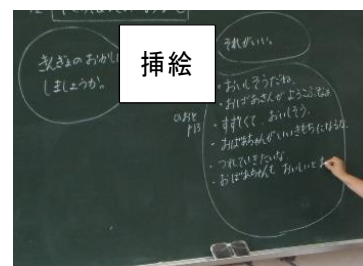


#### ○ 指導上の留意点・支援等

今まで意識したことがなくても知っている風鈴の音を聞かせることで、身の回りにある日本の文化に興味・関心をもたせる。

#### (2) 展開 女の子はお母さんとどんなことを話したのか、女の子役とお母さん役とに分かれてロールプレイングをする。

教師： 女の子はお母さんとどんなことを話したのかな。  
 A児： 涼しくておいしそう。早く一緒に食べたいね。  
 B児： おばあちゃんが喜ぶね。  
 C児： おばあちゃんもおいしいと思ってくれるかな。  
 D児： おばあちゃんがいい気持ちになるかな。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

お店を出た後の女の子の気持ちを考えさせるために、女の子役とお母さん役とに分かれて、どんな会話をしたのかロールプレイングをさせる。

### (3) 終末 日本の昔のおもちゃを体験する

教師： 和菓子以外にも日本ならではのいいところがありますね。  
日本に昔から伝わるもので何が好きですか。

A児： たこあげやこままわし  
B児： おてだまやたけとんぼ  
C児： あやとりやかると  
D児： はねつきもあるよ。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

写真で見たり聞いたりするだけでなく、体験することで日本の伝統や文化のよさを実感させる。その際に、地域の人と一緒に活動させ、楽しく会話したり教えてもらったりすることで、今まで気付かなかった日本の文化に親しみ、大切にしようという気持ちを育てる。

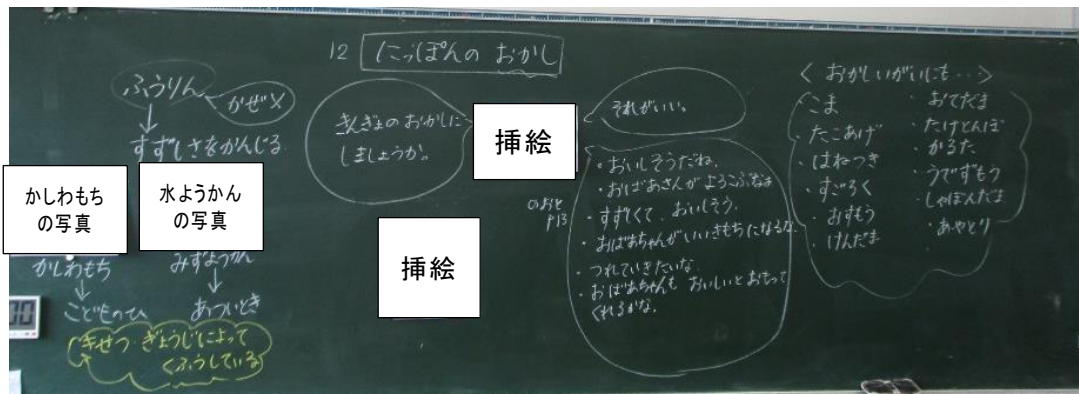
### 3 評価について

- 日本のお菓子がもつ、きれいさ、季節感、行事との関係、遊び心などのよさを知ることができたか（見取り、ノート等）
- 地域の人と楽しく関わりながら昔の遊びに取り組んでいたか。



### 4 実践を振り返って

名前は知っているがそのよさをあまり知らない「日本の伝統や文化」について体験を通して感じる事ができた。地域の人との交流をすることで、私たちの周りにはある日本のよさを楽しみながら感じる事ができた。児童からは「またやりたい。」との声が多く聞かれた。日常生活の中でも、日本の昔からの工夫や文化について興味をもってほしい。



## 1 本授業におけるポイント

- 道徳科の授業に ICT を導入する（以下、“ICT×道徳”と呼ぶ）ことで、議論した内容を確実に記録することができる。
- ICT を活用することで、発表時には、議論した内容を“見える化”させながら理由や思いを伝えることができる。
- ICT に記録した内容を家庭に持ち帰り、保護者と生徒が一緒に考え、議論する（以下、“家庭とともにある道徳”と呼ぶ）を実施することで、親子での対話を充実させ、内容項目に対して多面的・多角的なものの見方を促すことができる。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 家族の愛情「尊い玉子」（廣濟堂あかつき）

### 2 ねらい

言葉で言い表せない親の気持ちを考えることを通して、親はいつでも我が子の味方であることを理解し、家族のために成長しようとする道徳的心情を養う。

### 3 学習指導過程

#### （1）導入 資料の範読とめあての確認を行う

教師：	親に言われて忘れられない言葉はなんだろうか。
生徒A：	えんぴつの持ち方！
生徒B：	ゲームのし過ぎ！宿題早くやって！
生徒C：	早く風呂に入りなさい！

#### ○ 指導上の留意点・支援等

- ・箇条書きで書かせることで、表現しやすい環境をつくらせる。また、生徒全員に発表する場を設定することで、主題への意識をもたせる。
- ・補助発問として「親はどんな気持ちでそれを言ったのか」と問うことで、資料の内容との関連を図る。

#### （2）展開 資料の整理をし、資料から自分の意見を考える

教師：	どうして、主人は「坊ずの母は立派だ」と言ったのか。
生徒A：	親としてきちんと叱っていたから。
生徒B：	ちゃんと「私」にしたことを怒ってくれたから。
生徒C：	本当は辛いのに、あれだけ「息子のために」叱ることができるから。

・自分の心を傷つけてでも子供のために叱ったから
・自分が悪かったと考え、子供の間違いを正す責任を果たそうと、叱ったりしたから。
・自分の子供のやったことを悪いことだと教えていたから

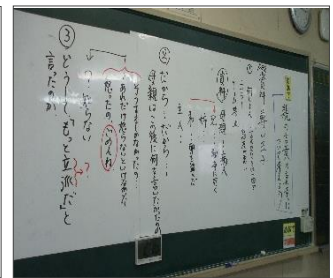
#### ○ 指導上の留意点・支援等

- ・個人で考える時間（2分）、グループで話し合い（5分）、全体への発表（5分）とする。
- ・ICT（Google スライド）を使用する（“ICT×道徳”）ことで、発表時には、議論した内容を“見える化”させながら理由や思いを伝えるよう指示する。
- ・“家庭とともにある道徳”においても、保護者との対話をより深化させるために記録した内容をもとに授業を振り返ったり、議論したりするよう指示す

る。

### (3) 終末 自分事としてとらえ、まとめを行う

教師： 今日の授業で感じたこと・学んだことは何だろうか。  
生徒A： 叱る親の気持ちが分かったと思う。  
生徒B： 私は、怒られたとき、反抗したり、逆ギレしたりするのですが、親は親として、私のことを思って怒ってくれているんだなと思いました。それはとてもありがたいことなんだと思いました。今はまだ、はっきりとは親の気持ちが分からないけれど、もしかしたら将来わかる 때가来るのかなと思いました。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

- ・資料の読み取りで終わるのではなく、「自分」なら「自分の保護者」ならと、「自分ごと」として考えることで、道徳的心情を養うことにつながるように努める。
- ・家庭に端末を持ち帰り、保護者と授業を振り返ることで、多面的・多角的に物事をとらえ、道徳的価値の理解により近づけるようにする。

## 3 評価について

○ 家庭に端末を持ち帰り、振り返りを保護者で行う。  
(感想)  
・親が叱ってくれるのは、これからの自分の未来を考えてくれて、それを正そうとしてくれていると分かりました。今回の授業や親との話し合いで、叱ってくれる人の大切さがわかりました。叱られるのは苦手だけど、ちゃんと受け入れて感謝できるようになりたいです。  
・道徳の資料の中だけでなく実際も子どもたちのことを思って怒ってくれていると分かりました。  
・僕は怒られることが多いけど、その言葉の中には「優しさ」があるのかなと思いました。

・親はどんな色々な事考えていることがわかりました。  
・家族の人は自分たちのことをたくさん考えてくれていると思いました。  
・道徳の資料の中だけでなく実際も子どもたちのことを思って怒ってくれているとわかりました。  
・言われたら一回で聞いて何層も言われないようする。  
・少し怒られないように生活態度を付けていこうと思いました。  
・僕は、怒られることが多いけど、その言葉の中には「優しさ」があるのかなと思いました。  
親の話を聞けるとき、違うことを考えたりしているので、これからはしっかり親の言葉に耳を傾けて、素直に受け止めます。  
・コスモスで遊んだときも、クレープで遊んだときも、コトリで遊んだときも、今思うと僕のことを一番心配してくれていたのかな、と思いました。少し前に、「怒ってるんじゃない」という言葉を聞いたことがあります。そのときは、「どっちも同じじゃん」と思いましたが、授業を終えて、「怒る」は自分のために感情的になっただけで、「叱る」は相手のことを考えてすることなんだな、と分かりました。  
・親は子供のために願っている。  
・親が叱っているということは、これからの自分の未来を考えてくれて、それを正そうとしてくれているとわかりました。今回の授業や、親との話し合いで、叱ってくれる人の大切さがわかりました。叱られるのは苦手だけど、ちゃんと受け入れて感謝できるようになりたいです。

## 4 実践を振り返って

“ICT×道徳”及び“家庭とともにある道徳”を実施することにより以下に示す成果と課題が見られた。

#### 【成果】

- ・ICTを活用することにより、議論した内容を振り返ったり、発表の質を高めたりすることが可能となった。
- ・「家族愛や子を思う気持ちの理解を深める等」の内容項目には、保護者との対話による“家庭とともにある道徳”に一定程度の効果があることが分かった。
- ・“ICT×道徳”及び“家庭とともにある道徳”は、特別な技術がなくても誰でもすぐに取り組むことができる。

#### 【課題】

- ・内容項目A・B・Cでは、保護者との対話による“家庭とともにある道徳”は有効であったが、内容項目Dについても効果があるのか検証が必要である。